



高知大学農林海洋科学部・農学部
Faculty of Agriculture and Marine Science Kochi University

後援会だより

目 次

ご挨拶 農林海洋科学部・農学部 後援会長 佐野 健一	1
ごあいさつ 農林海洋科学部長 農学部長 尾形 凡生	2
農林海洋科学部・農学部担当教員の紹介	3
学生寄稿	
農林海洋科学部	5
農学部	7
大学院生	25
物部キャンパス Photo Album	31
就職等進路状況資料	35
後援会資料	
平成28年度農林海洋科学部・農学部後援会役員名簿	37
平成28年度 予算書	38
平成27年度 決算書	39
平成27年度 後援会の活動状況	40
高知大学農林海洋科学部・農学部後援会規則	41

ご挨拶

農林海洋科学部・農学部
後援会長 佐野 健一



会員の皆様におかれましては、平素より後援会活動にご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
本年度、後援会会長の大役を仰せつかりました佐野健一と申します。誠に微力ではございますが、保護者代表として、後援会の役員・事務局の皆様方とともに、ご子息、ご息女が充実した大学生活を送ることができるよう、教育事業の援助ならびに会員相互の親睦を図ってまいりたいと考えております。

高知大学は、1949年（昭和24年）5月、国立学校設置法の公布と同時に国立大学一期校（旧帝国大学7校を含む全国28大学）として創立されました。

以来六十有余年、地元の皆様方をはじめ関係各位のご尽力により、創立当初の3学部（文理学、教育学、農学）から、現在は6学部（人文社会科学、教育学、理学、医学、農林海洋科学、地域協働学）および大学院研究科をはじめ、数多くの研究所・観測所ならびに学校、病院など各種施設を擁する総合大学へと飛躍的に発展して参りました。

皆様もご承知のように、高知県は全国一の森林面積84%（全国平均は67%）を持ち、太平洋を臨む海岸線は長く、温暖な気候と豊かな降水量に恵まれた風土が特徴であります。

このような自然環境の中で、大学創立と同時に設置された農学部は、本学の理念である「地域社会及び国際社会に貢献しうる人材育成と学問研究」を実現するため、積極的な教育研究活動を推進して参りました。

そして今年、教育研究活動の更なる深化を図るため、山から海まで広範なフィールドを有する高知県のメリットを最大限活かして「人と環境が適切な共生関係を保ちながら持続的発展する未来社会」の構築に貢献できる意欲ある人材の育成、また、農学・海洋科学分野の専門的知識、実践的技術および豊かな教養を身につけて、物事を広い視野から科学的に捉えることができ、課題発見能力、自律的な問題解決能力、さらには世界に向けての発信能力を備えた人材の育成を目的とし、新たに「農林海洋科学部」として、その一步を踏み出しました。

後援会では、ご子息、ご息女が本学部の研究活動を通じて大きく成長し、自身の力で問題を解決して将来を切り開くことができる逞しい力を身につけることができるよう、保護者の方々と共に見守りながら、学生の研究活動や福利厚生事業等への支援を続けて参りたいと考えております。

会員の皆様におかれましては、今後とも、後援会活動への一層のご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

また、学生の皆様におかれましては、何かと制約の多かった高校時代と違い、親元から離れて生活する方は勿論のこと、引き続き親元で生活する方も、今までに無かった自由な生活が手に入ったことを実感されていることと思います。しかしながら、自由を手に入れるということは、より一層の自己責任を伴うということでもありますので、そのことを常に肝に銘じて行動していただきたい。

そして、学問に励むだけでなく、サークル活動に汗を流し、友と語り、心の底から笑い、時に悩み、思い切り泣いてください。

私は高知大学を卒業して三十年以上が経ちましたが、時々、しみじみと思うことがあります。

「今、こうして目の前で笑っているのは、あの頃に知り合った友なんだよな・・・」と。

ごあいさつ

農林海洋科学部長
農学部長

尾形凡生



講演会の皆様には、日頃より、学部教育運営および学生の福利厚生に多大なご支援を賜り心より御礼申し上げます。

高知大学農学部は、本年度より学部組織を改編し、従来の1学部8カリキュラムコースの体制から、農林資源環境科学科、農芸化学科、海洋資源科学科の3学科を擁する農林海洋科学部へと生まれ変わりました。

農学部は、昭和24年の新制高知大学の誕生と同時に設置されました。学生定員や教員定数などの数字から見る限りでは必ずしも大規模とはいえないものの、獣医学を除くほぼすべての農学領域を内包し、農業に関わることはなんでも学べる総合学部として歩みをすすめてまいりました。今回の改組は、これまでの農学部の積み重ねてきたものは何ひとつないがしろにせず、その上で、これまで人類が手出しできなかった未知の資源の宝庫であって、かつ21世紀の飛躍的開発が見込まれる海洋生命科学と海底資源科学の2分野をあらたに仲間に加えました。すなわち、プラス思考、発展志向の組織改編でありますので、字面の上では「旧」農学部生となった上級生のみなさん、保護者のみなさんも、どうぞあたたかく「新」農林海洋科学部新生をお迎えいただきたく存じます。

私は新生を迎えた際のあいさつで、学生たちに「さあ、本を読もう。旅をしよう。恋をしよう。なぜなら、知識を得ることや、旅をして知見を広めること、恋をすることはいずれも、なにかも忘れて熱中するほど魅惑的なことであるが、一般の社会は、その構成員が何かに熱中すると生産の効率が下がるから、ヒトが夢中になることを阻止しようとするものである。大学は君たちが熱中することをあまり邪魔しない（少しは邪魔するかも）。充実した4年間を過ごしてください。」と伝えます。昨今、世間はなにかと功利主義、効率主義でものごとが語られる風潮が見て取れます。教養なき功利主義や精神論がいかにか悲惨な結末をもたらしてきたかは明らかであるのに、こころの余裕、考え方の多様性、教養や基礎科学を軽視するきざしがあちこちに見え隠れするのは危惧すべきことです。高知大学農学部生・農林海洋科学部生には、広大な自然の中で、のびのびと、かつ、たっぷり時間を使って豊かに学び、そして、真の常識を身に着けた社会人として羽ばたいてもらいたく、教職員一同、それをサポートするために奮励してまいりますので、ぜひ皆様も声を合わせて、若者たちを応援くださいますようお願い申し上げます。

農林海洋科学部・農学部担当教員の紹介

農学部(農学科)は、平成28年度に改組を行い、農林海洋科学部(農林資源環境科学科、農芸化学科、海洋資源科学科)として新たに出発しました。入学定員は、170名から200名(30名増)となりました。農林海洋科学部・農学部を担当する教員の農学部での担当、主な研究テーマ・活動を紹介します。

農林資源環境科学科担当

暖地農学主専攻領域

教授	尾形 凡生	暖地農学コース	果樹の成長制御機構の解明とケミカルコントロール技術の開発
教授	島崎 一彦	暖地農学コース	花卉の生長と発育の制御・植物の器官研究・県特産花卉の生産研究
教授	村井 正之	暖地農学コース	稲遺伝、良食味、米粉パン用極多収晩生品種、老人・病院用ご飯、鑑賞用稲
准教授	西村 安代	暖地農学コース	野菜の養液栽培・生理障害・園芸施設の光環境・環境保全型農業
准教授	増田 和也	国際支援学コース	農山漁村における資源利用と社会変容に関する研究
准教授	松川 和嗣	暖地農学コース	高知県独特の和牛である土佐あかうしの飼養、増頭、保存
准教授	宮崎 彰	暖地農学コース	水稻の高温登熟性・水分生理に関する研究、熱帯有用植物の栽培生理
准教授	宮内樹代史	暖地農学コース	省エネルギー温室の環境計測・評価、農産物生産・流通システムの最適化
講師	濱田 和俊	暖地農学コース	果樹の開花・果実発育の制御およびメカニズムの解明
講師	松島 貴則	暖地農学コース	労働力問題と農業サービス、土地利用型農業の研究
講師	山根 信三	暖地農学コース	スイカの肉質、水耕栽培によるトマト、果菜の研究

自然環境学専攻領域

教授	大谷 和弘	国際支援学コース	生物活性天然化合物の探索と地域保健への応用
教授	荒川 良	自然環境学コース	天敵昆虫を利用した農林・衛生害虫の防除の研究、害虫管理技術開発
教授	石川 勝美	自然環境学コース	パン適性小麦、天然資源・麦飯石の高度利用、水の構造化、植物工場
准教授	伊藤 桂	自然環境学コース	ハダニ・昆虫類を用いた行動生態学・進化生態学
准教授	手林 慎一	自然環境学コース	生理活性物質化学、園芸作物の耐虫性、貯穀害虫の化学生態学
准教授	福田 達哉	自然環境学コース	マメ科植物の蝶形花を用いた相対性に関する進化発生学的研究
准教授	森 牧人	自然環境学コース	広域農林生態系の気象環境学的評価

生産環境管理学主専攻領域

教授	河野 俊夫	自然環境学コース	流通食品のすり替え偽装防止技術の開発、食品混入異物の非接触検出・識別法の研究、糖尿病患者・アレルギー患者対応食品の開発研究
教授	藤原 拓	流域環境工学コース	地球温暖化を考慮した流域水環境管理に関する研究
教授	松本 伸介	流域環境工学コース	農業施設の構造設計、土木材料の新規開発
准教授	齋 幸治	流域環境工学コース	地域水環境悪化の原因メカニズム解明と改善
准教授	佐藤 周之	流域環境工学コース	流域水環境管理および流域社会基盤管理に向けた総合的な工学的研究
准教授	佐藤泰一郎	流域環境工学コース	中山間地域の水・土・里環境保全、環境型傾斜地農業の推進
准教授	松岡 真如	国際支援学コース	リモートセンシングデータを用いた陸域(土地被覆や植生)の解析

森林科学主専攻領域

教授	大谷 慶人	森林科学コース	きのこの生態と栽培、樹木精油の機能、木材・非木材パルプ・紙
教授	後藤 純一	森林科学コース	林業機械の開発、林業作業計画のための森林空間情報システムの開発
教授	塚本 次郎	森林科学コース	環境・生物多様性保全に配慮した森林管理技術、落葉分解系の空間分布パターン
准教授	市栄 智明	国際支援学コース	樹木の成長や繁殖、環境ストレス応答に関する研究
准教授	市浦 英明	森林科学コース	機能紙に関する研究、バイオマス産業廃棄物の再資源化に関する研究
准教授	古川 泰	森林科学コース	地方自治体の林業政策、林業労働問題、南アジア林業
准教授	鈴木 保志	森林科学コース	林道の維持管理施設、木質バイオマス資源の収穫方法
講師	松本 美香	森林科学コース	中山間地域における森林管理、林業林産業構造、集落構造

農芸化学科担当

農芸化学科

教授	芦内 誠	食料科学コース	バイオベース新素材の開発と応用、環境先進型の微生物分子育種技術の確立
教授	岩崎 貢三	生命化学コース	土壌-植物生態系、植物の物質吸収・蓄積機構、環境保全型農業
教授	枝重 圭祐	生命化学コース	動物の生殖細胞の凍結保存技術の開発と耐凍性に関わる遺伝子の探索
教授	木場 章範	生命化学コース	植物の発病・免疫機構の解明～病気に罹らない植物をつくろう!～
教授	金 哲史	生命化学コース	昆虫行動を制御する化学因子・植物由来の生理活性物質に関する研究
教授	康 峪梅	食料科学コース	土壌・水の有害金属汚染、草原退化の機構解明と対策
教授	田中 壮太	国際支援学コース	熱帯土壌学、土壌生態学、持続可能な農業
教授	永田 信治	生命化学コース	食と健康と環境に役立つ有用微生物探索と産業利用
教授	曳地 康史	生命化学コース	植物細菌・ウイルスと植物の相互作用の解明、植物病害防除技術開発
准教授	上野 大勢	食料科学コース	高等植物の栄養生理に関する研究
准教授	柏木 丈弘	食料科学コース	食品中の生体調節物質の探求、食品の香り成分の有効利用
准教授	島村 智子	食料科学コース	食品成分に関する研究、食品の機能性の解明
准教授	村松 久司	食料科学コース	産業用酵素の探索・機能解析・応用法の開発
講師	若松 泰介	食料科学コース	新規有用たんぱく質の探索、機能解析・構造解析、そして応用

海洋資源科学科担当

海洋生物生産学コース

教授	足立真佐雄	海洋生物生産学コース	赤潮有毒プランクトンの研究、プランクトンによるバイオ燃料生産
教授	池島 耕	国際支援学コース	沿岸の環境および生物資源の保全と持続的な利用に関する研究
教授	大島俊一郎	海洋生物生産学コース	魚病原因微生物の診断・感染機構・防除法、養殖魚の生産に関する研究
教授	關 伸吾	海洋生物生産学コース	魚介類の品種改良、野生集団の遺伝的保全に関する研究
教授	森岡 克司	海洋生物生産学コース	養殖魚の品質、鮮度保持に関する研究、未利用資源の有効利用
准教授	益本 俊郎	国際支援学コース	魚が必要とする栄養素の働きを調べ、餌の開発に利用する研究
准教授	足立 亨介	海洋生物生産学コース	海産無脊椎動物と深海動物を用いたバイオテクノロジー
准教授	中村 洋平	海洋生物生産学コース	魚類生息場の機能解明、海産魚類の生態
准教授	深田 陽久	海洋生物生産学コース	魚類の成長に関する内分泌学的研究、養魚飼料の評価
准教授	山口 晴生	海洋生物生産学コース	海洋植物プランクトンに関する研究、内湾赤潮の解明
講師	今城 雅之	海洋生物生産学コース	魚類病原微生物(ウイルスと細菌)に関する研究

海底資源環境学コース

教授	上田 忠治	新規金属錯体の合成および酸化還元反応解析
教授	岡村 慶	海底鉱床探査のための現場型化学センサ開発
教授	村山 雅史	同位体を用いた物質循環の解明と過去の海洋環境復元
教授	寄高 博行	海洋表層流の変動に関する研究
准教授	西尾 嘉朗	同位体地球化学を用いた海底資源や地震・火山等の地殻変動に関する研究
准教授	野口 拓郎	海底熱水活動によって供給される化学物質の挙動解明と海洋環境への影響評価、ならびに観測機器の開発・運用
助教	長谷川拓哉	機能性セラミックス材料の創製、新規無機蛍光体材料の開発、蛍光体の発光機構に関する研究

海洋生命科学コース

教授	久保田 賢	住民の健康づくりを支援する地域統合栄養ケアシステムの構築
教授	津田 正史	海洋微細藻からの有用物質の探索と開発、およびDNP-NMR研究
教授	長崎 慶三	海洋生態系におけるウイルスの役割と存在意義に関する研究
教授	深見 公雄	海洋微生物の生理・生態とその働きを利用した環境保全・修復
准教授	金野 大助	有機反応化学および量子化学計算による分子構造・反応解析
准教授	櫻井 哲也	藻類等の生命情報を網羅的に用いた比較解析によるゲノム研究
准教授	寺本 真紀	微生物や微生物のもつ遺伝子を利用する研究
准教授	三浦 収	宿主と寄生虫の共種分化、寄生虫の社会性など
助教	Dana Ulanova	海洋微生物の二次代謝産物生合成研究
助教	小野寺健一	海洋渦鞭毛藻類の有用代謝産物探索

平成29年4月理工学部へ異動

教授	笹原 克夫	自然環境学コース	降雨による斜面崩壊発生メカニズム、深層崩壊の発生予測
教授	原 忠	流域環境工学コース	液状化や斜面崩壊などの地盤災害と地震防災に関する工学的研究
講師	野口 昌宏	森林科学コース	中・大規模木質構造や木質部材の開発、木造住宅の地震防災に関する研究

朝倉で半年を過ごして

農林資源環境科学科1年生 加藤 隆丈

自分が高知大学農林海洋科学部農林資源環境科学科の1期生として入学して半年とちょっとが立ちました。この妙に長い学部学科名と大学生活にもやっと慣れてきました。とはいえ自分の学科では一年生の内はコースも決まっていませんし授業も基礎的なものか共通教育しかなくさらにはキャンパスも農林海洋科学部のある物部キャンパスではなく朝倉キャンパスに通っています。なので慣れたといってもまた四月からは大きく環境が変わることになります。それでも大学生活の基本、特に授業の履修の仕方などは高校とは全く違うものですしそれは来年からも変わらないですから今のうちに慣れることができました。また、ほかの学部の学生と関われる機会と言うものは来年からは限られてきますし朝倉キャンパスにしかないサークルなどは来年から頻繁に通うことができなくなるので一年生の内に朝倉キャンパスですべきことと言うのはたくさんあると思います。特に人脈と言うのは重要なものだと思うので一年生の内に他学部の学生と交流しておくことは大切なことであると思った。

では来年からが本番で一年生の内は他の学部の学生と勉強することはまったく変わらないのか?と言われると実はそうではありません。なぜなら高知大学農林海洋科学部では一年生の内からFS(フィールドサイエンス)実習というものが前期後期で3回ずつあるからです。これは高知大学農林海洋科学部の最大の魅力ともいえる授業です。FS実習では物部キャンパスのフィールドや北嶺の演習林、果ては室戸岬まで移動して様々な実習を行いました。田植えに稲刈り、ハウスの見学、干潟の観測、重機の運転、雨の山林でのフィールドワークなど実に様々な体験をする

ことができました。

先程高知大学農林海洋科学部の最大の魅力はFS実習だと言いましたが、この実習を可能にする大規模な農林海洋科学部専用の畑、田、放牧場、演習林などがあることも高知大学農林海洋科学部の魅力だと言えるでしょう。今はまだ朝倉キャンパスにいるので実習の時にしか利用する機会がないが、来年から物部キャンパスに移ればこの広大な設備がキャンパス内にあるというのだから中々すごいことだ。来年から物部キャンパスの設備をフルに活用して学ぶことができると今から楽しみだ。来年からはより本格的な授業となるので今の内からその授業についていけるよう研鑽を積んでいこうと思う。

今後の大学生活への期待

海洋資源科学科海底資源環境学コース1年生
宮本 洋好

私が高知大学を知ったのは去年である2015年の12月でした。

高知大学を知った切っ掛けは私が中学生の時から大学では海洋を学びたいと考えていて、東京海洋大学の教授である私の父から「高知大学で今年から新しく海底を学べるから行ってみないか?」と誘われ、元々深海に興味を持っていたが、海底の知識が全くなかったのでせっかくだからと思い高知に来る決意をしました。

私は大学入試を2年間浪人しており今年現役3回生と同一年です。2年間浪人してるときには勉強だけでなく精神的にもキツイ時期ではありましたが、家族や高校時代の友達に支えられることで浪人時代を乗り切ることができました。

さて、そんなみんなより2歳ほど年上な私が高知大学に入学して半年がたちました。大学が始

まる前はどんな授業でどんなことが学べるのだろうと不安と期待を持っていましたが正直な話、この半年は共通教育だけであまり専門的な授業をしないので期待して分少しがっかりしてしまいましたが、高校から続けている学校行事のサークルに入りたかったので入った黒潮祭実行委員会で他学部の新しい友達や素晴らしい2回生・3回生の先輩たちと会え、楽しい時期を過ごすことができました。

あと半年たつと私も2回生に学年があがります。そう考えるとあつという間だなと感じることができます。2年目から今の朝倉キャンパスから物部キャンパスに移り、専門的な授業が始まります。入学前に期待していたことが学べることに今からわくわくしています。勿論ですが、キャンパスが変わっても今入ってる黒潮祭実行委員会を続けていこうと考えています。理由としては素晴らしい仲間に出会ったこともそうですが、一つのことを全員でやりきる達成感がとても気持ちよくして楽しかったためです。

今後本格的に始まる授業の中で自分が将来何をしたいか、何を学ぶ必要があるのかをみきわめる時期が2回生であると考えていますが、なにより、まずは楽しんで学んでいけたらと思います。特に今自分が興味のある分野は「メタンハイドレート」などを探査、発掘する機械なので、そこを重点的に学んでいけたらと物部に期待しています。

そしてできれば大学院に進学しもっと専門的なことを学び、ゆくゆくは私の父のような研究者になれたらと考えているので、残り3年半を仲間と共に切磋琢磨し、充実した学生生活にしたいと思います。

新しい環境で

海洋資源科学科海洋生物生産学コース1年生
浦田 真平

大学は西の方へ行ってみようという気持ちと海に対する興味関心が強かった私は、高校の先生の紹介もあり高知大学への進学を決めた。茨城県出身の私は高知県には今まで一度も来たことがなかったため、どんなところかと楽しみ半分不安半分の気持ちで大学生活が幕を開けた。全国でも珍しいらしい県外出身者が全体の約7割を占める高知大学では、あらゆる方言が飛び交い、生まれてからほとんど標準語にしか触れてこなかった私にはとても新鮮だった。親元を離れ、一人暮らしを始めてみると、自分だけの空間は思いのほか居心地がよく、すぐに馴染むことが出来た。しかし、毎日の炊事や家事はなかなか大変で、自分の母をふくめた世の中のすべての主婦または主夫の方々の偉大さを改めて感じた。授業の方は高校までと違い一コマ90分と長いので集中してられるかと心配だったが、高知大学の先生方の講義はとても興味深く、聞き入ってしまうため90分などあつという間に感じる。また、大学に入ったら何か楽器をやってみようというありがちな思いから入ったジャズサークルも今では大切な居場所の一つとなり、まったくの音楽初心者だった私に先輩方が熱心に指導してくださったおかげでだんだんトランペットが吹けるようになってきた。このようにこれまで全く接点のなかったものにも挑戦できることは大学の大きな魅力の一つだと思う。サークル活動の中で中国地方や四国の他の大学の学生と交流する機会があったり、授業の中で留学生の人と関わりを持ったりすることで、これまでの狭かった自分の世界が大学に入って一気に広がるのを感じた。

こうして一人暮らしや大学の授業やサークルや

友達にも大分慣れてきてやっと余裕が出てきたかと思ったら、一年目もう終わりに近づき、これからは朝倉を離れ二年目からの物部に向けての準備をしなければならない。また環境が変わるため、少しの不安もあるが、農学部の先輩方からは物部の周りはとても住みやすいと聞くので期待している面もある。来年度からは専門的な授業や実習がさらに増え、またレポートや課題も増え、今年度よりもいっそう忙しくなることだろう。しかし、自分の興味のある内容を中心に学んでいくことができるため、とても楽しみだ。

大学生活で学んだこと

暖地農学コース2年生 伊藤 咲南

私が高知大学に入学してから早くも1年と半年が過ぎました。はじめての一人暮らしや慣れない大学の授業スタイルに戸惑い、4年間の大学生活に不安を抱いていた入学当初をととても懐かしく感じます。

1年生の頃は朝倉キャンパスで一般教養を学びました。正直なことを言うと、入学したばかりの頃は農学の専門的な授業が少ないことや物部キャンパスに通っている農学部の先輩方と関わる機会があまりないことから、朝倉での生活に物足りなさを感じることもありました。しかし、農学部以外の様々な学部の人たちと共に学ぶことで、自分とは違う多種多様な価値観に触れることができ、物事に対する視野を広げるうえで朝倉キャンパスでの1年間はとても貴重な経験になったと思います。

2年生になるとキャンパスが朝倉から物部へと変わり、専門的な授業が増えました。特に暖地農学コースで行われる農場実習では、物部キ

ャンパス内の広い圃場を使用して農作物の植え付けや収穫、ハウス栽培の手伝い、農業機械の運転実習、あかうしの畜舎の管理など様々な作業を行います。夏のハウスの中の暑さや農業機械の扱いの難しさ、農作物が収穫できたときの喜びなど実際に体験することではじめて分かる農業の大変さやおもしろさがあり、自分自身の体で学ぶということの重要性をととても感じています。農業実習には先輩も参加されているため、うまく野菜を育てるアドバイスをもらったり研究室について教えてもらったりと、先輩方と交流する良い機会にもなっています。また、実習の中で個人が担当する圃が与えられ、私は今ハクサイ、ダイコン、ブロッコリー、シュンギクといった野菜を育てています。ダイコンが真っ直ぐ育たず曲がってしまったり、アオムシにハクサイの葉をほとんど食べられたりと失敗することもたくさんありますが、試行錯誤を繰り返した分収穫ができたときの感動はとても大きいです。野菜を作ることの難しさや農家さんの苦労を身をもって知り、今まで以上に食事に対して感謝の気持ちを持つようになりました。

大学生生活の残りの時間は2年と半年、来年度からは3年生になります。自分の将来や進路がまったく決まっていなわたしにとって、研究室分属も行われる3年生はとても大事な時期です。将来を見据えつつ様々なことに挑戦して知識や経験を積み、自分のやりたいことや目標を見つけたいと思います。

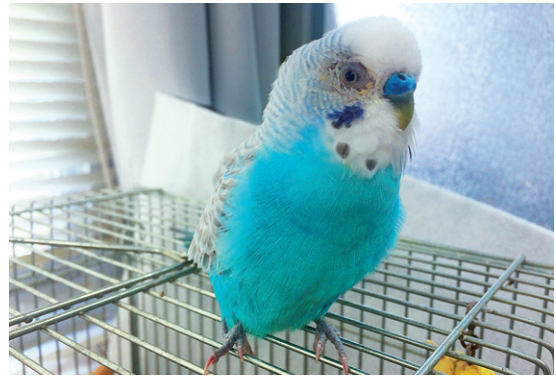
水やり、水やり、インコ、水やり

暖地農学コース3年生 池田 康一郎

入学してから、早3年が過ぎようとしていることに、焦りを感じつつ、将来のことについてあま

り考えていないまま、就職活動を全くしていないことにも焦りを感じ始めつつ、この原稿執筆の期限が過ぎていることに焦りを感じつつ、私は今日も一日3回、水やりをしています。私は蔬菜園芸学研究室という安心・安全・おいしい野菜作りをモットーに、日々作物を育てながら、資材・栽培技術の実用化の研究をしています。研究室に入るのは、3回生の二学期からで、それまではこの、のんびりとした物部キャンパスで、授業を受け、実習をしたり、とてもほのぼのとした生活を送っていました。授業がない日があったり、午後からしか授業がない日もあって、とてもゆったりと学生生活を楽しんでいました。時間に余裕があったので、カメラアシスタントのバイトで、テレビ中継を行ったり、日々のニュースを取材しに行ったりという経験もすることができました。そして、この10月から私は研究室に入り、毎日1日3回の水やりや、作業にととても忙しくなりました。植物が相手なので、私たちは毎日作業があり、これまでとは違った充実感を味わっています。しかし、この忙しい作業の中でも研究室には、私たちが癒してくれるインコがいます。初めてこの研究室にきたときはインコの多さに少し驚きましたが、毎日見ているととてもかわいく見えてきます。お気に入りのインコと戯れることで、とても癒されています。でも、インコととても仲良くなったと思っていたのですが、急に愛想をつかされたり、嫌われたりするのです、まだまだだなと感じています。生き物を相手にするのはやはり難しいと感じさせられました。また、一日公開で買ったカブトムシの幼虫もこの前殺してしまい、生き物を飼うという責任を改めて感じさせられました。植物も一緒に水やりを疎かにしたり、管理を怠るとすぐに萎れたりするので、毎日しっかりやるということが大切なだと学ぶことができました。研究室はまだまだ始まったばかりですが、これからもし

っかり、個性的な先輩、個性的な同期、個性的な先生とともに高知県の農業、日本の農業のために頑張っていこうと思います。そして、インコとの絆を深め卒業できるようにしていきます。



完全感覚ドリーマー

暖地農学コース4年生 大家 知也

高校生の頃から輝かしいキラキラした大学生を思い描いていました。そんな夢を実現させてくれたのが高知大学です。入学してからすぐに寮に入りました。初めて実家を離れての集団生活でしたが寮の先輩たちが優しくサポートしてくれたり、大浴場や食堂の設備もあったので本当に困ることが無かったです。大学の講義や課題が難しくても長年大学生を続けている先輩たちも多くいるので、その先輩たちに教えてもらうことも出来て勉強も充実していました。勉強だけではなく、寮ではスポーツ大会や餅つき大会などの寮行事もありました。スポーツ大会では様々な競技を通して運動のすばらしさ、チームワークの大切さ、他人を思いやる気持ちを学びました。餅つき大会では、日本の古き良き伝統をかみ締めながら、餅を打ちつけ、成形していきました。いろいろな事がありましたが何より一緒に生活を始めた同級生たちと過ごす時間がとにかく楽しかったです。

そんな一年生を過ごし、涙の別れを経て二年

生からは物部キャンパスにある日章寮に引越し、新たな生活をスタートさせました。最初の頃は一年生の時の寮が楽しすぎたこともあり、新しい環境に慣れるのは大変でした。よく先輩たちと衝突していました。しかし、時間が経つと不思議なもので先輩たちはどんどん卒業していき、今ではみんな仲が良く住みやすい寮になっています。時間が解決してくれることもあるのだと感じました。二年生からはコースに分かれるので今まで関わったことがない人達と一緒にいることが多くなります。ほぼ寮生しか友達がいなかったのが最初は不安でいっぱいでしたが、実習やいろいろな授業やグループワークを通して多くの人と友達になりました。先輩、後輩、先生とか関係なく農学部の人達は本当にみんな優しく一緒にいて楽しいです。これだけは本当です。本当にみんな優しくしてくれます。はじめの日章寮でのつまずきからは想像もつきません。ありがとうございます。

はるか先のことと思っていた卒業ですが、長かったけどあつという間でした。先輩たちが言った意味がわかりました。振り返ると自分は輝かしいキラキラした大学生でした。そんな大学生にしてくれた高知大学に感謝しています。

挑戦する大学生生活

海洋生物生産学コース2年生 奥村 悟

自分が高知大学に入学して二年近くがたちました。この二年間は様々な発見や経験を行うことができ、とても充実した二年間でした。一人暮らしやアルバイト、大学の授業や実験に色々なイベントなど高校生の時には体験できなかったことを数多く経験することができています。

自分は大学に入学した時に一つだけ自分の中

でルールを決めました。それは「やりたいことをあきらめない」ということです。高校生でいる間は部活動や勉強など「高校生だから」という理由でできない事、やりたいけどあきらめなくてはならないことがたくさんありました。しかし大学生になりある程度の自由を得ることができたからにはこれまでできなかったこと、あきらめていたことをしなくては損だと思いこのルールを設定して常に心掛けています。

大学生になると、生活をしていく中で色々な情報を得るようになりました。それらの情報を聞いて「これやってみたい」と思ったらすぐにどうすれば参加できるかを考えるようにしています。できない理由は考えればいくらでも出てきますがそれらにはあえて触れずとにかく挑戦することだけを考えるようにしています。そうして挑戦したことでいい経験ができたこともあります。失敗したことも多々あります。でもそれ以上に楽しいことや新しい発見がこれまでたくさんありました。失敗も悔しく辛いことですが次につながることでありとてもいい経験ができていこうと考えるようにして前向きにとらえるようにしています。これからもたくさん失敗することがあるかもしれませんが自分のやりたいことに挑戦し続けていきたいと思っています。

自分のやりたいことに思いっきり挑戦できるというぜいたくな時間はある程度の自由度と行動力のある大学生の内の特権だと思います。ただこれから授業や実験、実習で忙しくなることもあるかもしれませんがそれでもやりたいことはあきらめずに時間がなさそうなときこそなんとか時間を作ってでも挑戦することをやめないようにしたいです。挑戦した先に失敗があるかもしれませんが特に何も得られないかもしれません。それでも自分の「やりたい」という気持ちには正直にこれからの残りの大学生生活を過ごしていきたいです。

一瞬なのにいっぱい

海洋生物生産学コース3年生 柴田 想太郎

私は今3年生が終わろうとしています。あっという間です。とても短く感じますが今思い返してみると色々なことが詰まっていました。

私は愛知県の名古屋市出身のためとても遠く高知県までや四国にすら一度も訪れたことがありませんでした。地元と比べると環境がとても違い、外の景色一つでも新鮮でした。初めに高知県に来たとき自分は、洗濯や料理など家事全般ほとんどしたことがなく何のスキルも持たずに一人暮らしを急に始めました。しかし不思議と不安はなく初めての知らない土地で、初めての一人暮らしにワクワクが止まらなかったです。案の定高知に到着し、一人暮らしを始めると初日から友達ができ家事も友達に教えてもらったり、とても現代っ子なのですが Youtube をみたりなどネットに頼ることで難なくクリアできました。休日の日や大学が終わると地元でしたようなショッピングをしたり大きなテーマパークで遊んだりすることはできませんが、逆に都会にはない自然での遊びが高知には多くありました。高知は太平洋に隣接し山岳地帯もあるので海川山の全部がそろっています。暖かい時期では川や海に入って生き物を捕まえたり、泳いだりして遊ぶこともできますし、秋になると山の方では紅葉がとてもきれいです。小学生の頃に戻ったような感じですがとても楽しく過ごすことができました。

そして二年生になると自分は農学部のためキャンパスが物部に移るので1年過ごした朝倉を離れ、引っ越しました。農学部の学生はほとんどが後免か野市というキャンパスから離れた場所に引っ越します。なぜかというとうと大学周辺は何もなく生活に不便のため少し離れても生活に便利な場所に住むのからです。そのためほとんどの

学生が原付、バイク、車のどれかを持っています。私は車を持っていました。朝倉のときは車を持っていなかったため自転車で行ける範囲の近辺しか行けなかったのですが車を持っているとグンと活動範囲が広くなりました。車は原付より高いのですが雨の日や冬の寒い日は大変ですし、長距離の移動をするときも大変なので私は車をおすすめします。朝倉では少し遠かった海も近くなったので海釣りを始めてみたり、友達を連れて香川にうどん巡りをしに行ったり、高知県の観光地を巡ったりと高校生の時では味わえないようなプチ旅行を繰り返していました。

そんなこんなしているうちに気づいたら三年生の終わりかけに入っていました。研究室の分属も決まり研究や就活も始まろうとしています。残りの1年も今までのように一瞬のことなのだろうと思いつつ、今まで通り自分の中の思い出にこれからのことも刻み、悔いのない楽しい大学生活にしていこうと思います。

キャンパスライフを通じて学んだこと

海洋生物生産学コース4年生 美馬 紀子

11月某日、残された大学生活ももう残すところあと約4ヶ月となりました。期待と不安が入り交じった2013年の春には、「4年間って長いな。」などと思っていましたが、3年8ヶ月を過ごしてきた今の印象は、「あっという間だったな。」です。振り返って一つ一つのことを思い出そうとすれば確かに紆余曲折、3年強の思い出があり、しかしそれらを通り過ぎるのは一瞬で、実に長いようで短いという表現がぴったりです。

思えば大学生活は楽しいことばかりではなく、辛いことや苦しいこともありました。慣れない環境下、暗中模索で進み続け、どんな大学生活にな

るのか全く予想できなかったあの頃から、それが終わりがけの今では、ある意味で想像もしていなかった自分になっています。入学当初に描いていた理想の自分に完全になっているとは言い切れませんが、成長したところはあると思っています。

そしてここに至るまで、多くの人と関わってきました。他大学での実習、ボランティア活動、アルバイトなど、枚挙に暇がありません。中には迷惑をかけたこともありましたが、後ろめたい気持ちも残しつつそれはそれで、自分なりに経験を積んでこれたかと思えます。

そうした中で気付いたことは、人は一人では生きられないということです。周りで支えてくれる人のおかげで私はここまでやってこれることができたと実感しています。漫然と暮らしているだけではそんなことを考えもせず、また、側に人がいることも当たり前のように思っていました。そうではなくて、誰かの記憶の中に自分が存在していること、直接的な支えでなくとも自分のことを想ってくれていることは、生きていく上で本当に価値のあることだと考えるようになりました。これを踏まえて、恵まれている環境にいると身に染みて感じています。このような気持ちも、いろんな経験の中で人と関わっていなければ、考えることもなかったはずですが、この点が大学生活を送る中で、成長した点であると考えています。

ここで言葉にするだけでは、お世話になった方々全員に届くことは難しいと思います。それでもあえて、この場を借りてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。大学生になってから自分に変化があったと思います。こんな気付きや考え方を与えてくれた、関わってくれた皆様に、心の底から感謝しています。これから、大学生活最後の瞬間まで悔いの無いように過ごし、少しずつでも与えられる人から与える人になって、恩返しをしていきます。

次の惑星へ

食料科学コース2年生 Suvd-Erdene Oyun
(オユン スブドエルデネ)

高知大学に入学して日本文化を体験しながら1年半の大学生活を過ごした。高知は穏やかで私には親しいところだ。この1年半の生活一回繰り返して見れば、新しい、面白い、知りたい、楽しい、つらい、出会いが多いなど色々な言葉が出て来る。講義を分からないこともあり、やる気がない日、日本語が難しくて本当に何もわからないときもあった。この時、家族や友達や先生や先輩たちの支えで乗り越えた。今は日本の生活に慣れて日本語を少し分かるようになったことを嬉しく思ってもっと頑張ろうと思っています。

さらに、日常生活のいろいろなことで異文化を感じて、日本人の考え方、モンゴル人の考え方を知ることができた。日本人はモンゴル人と違って細かいことまで考え、ちゃんとしている人たちだと思います。日本人から学ぶことが多いのでこれを身につけたいです。さらに、日本で留学している他の学生たちと出会って、自分たちの経験をシェアすることで色々なことを分かりました。留学で日本人の友だけではなくモンゴルを含めて国々の友を作ることができてよかったです。

現在は、実験や外書講読や課題や日本語の勉強に追われる日々が続いている。休みの日は勉強に疎かにならない程度でバランスよくアルバイトをしています。大学生活とは一人暮らしの生活いわゆる自由な生活です。一日24時間すべて有効に使うか無駄に使うかは全て自分の責任であることをよく感じた。良い習慣を作る十分時間は今だけであるからそのため毎週ある程度で運動し、ウクレレを学ぶなど色々なことに挑戦しています。自分の成功、幸せな生活は勉強だけでは

なく健康で良い日常習慣からなることをよく分かりました。

高校の時読んだ「星の王子さま」という本では王子さまは、いろいろな惑星を訪れて知識を得りながら自分の惑星の良いところを見つけた。このように私も日本に留学したことで自分やモンゴルについて客観的に見て学んでいます。また色々な国に行って経験したいです。大学での後2年半色々なことに挑戦して、コースの仲間と協力して大学生生活を充実したいです。



大学生活、そしてこれから

食料科学コース3年生 養父 亮太

この先どうなるのかと不安を抱え、高知大学に入学してから早3年の月日が経ちました。思い返せば、長いようで短いこの3年間には楽しかった思い出もつらかった思い出もたくさんありました。今回この後援会だよりの文章を書かせて頂くことになったので、これを機に入学当初のことから振り返ってみようと思います。まず大学とはどういうものなのかをあまりよく知らなかったために、入学したての時は正直、戸惑いだけでした。履修登録、レポート、サークル活動など全部自分で管理してやっていかなければなりません。また、新しい友達はできるのか、単位はしっかりと取れるのか、などと心配な事だけでした。それと同時に自分はもう一人前の大人として

自分のことは自分ですという責任も感じていました。3回生となった今では、2年前のことがうそのようにすっかり大学での生活に慣れてきました。大学の講義も高校までとは違い、時間が90分に延びただけでなく、みんなが知っているようなことから専門的な細かい話まで様々です。中には頭が痛くなるような難しい話も時折含まれていて、とても勉強になります。しかし、ふと考える時があります。いったい自分は大学に来て何をやっているのだろう、自分はこれからどうなりたいのだろうと。とある先生が講義でおっしゃっていた話を思い出しました。「答えがない問題に取り組む意味がわかるか?」「それを学ぶのが大学という場所だ。」今まで、中学・高校と答えが明確にあるものについてばかり勉強していたので、最初その話を聞いた時はあまり意味が理解出来ませんでした。けれども大学にきて勉強をしていく上でうっすらとですが、その意味が多少はわかってきたような気がします。これからはこの意味が鮮明に理解できるように日々勉強していきたいと思います。また、大学で出会ったかけがえない友達、たくさんの知識を教えてくださいました先生方に感謝し、これからも過ごして生きたいと思います。

このような貴重な大学生活も残り1年。この限られた時間を決して後悔のないように精一杯楽しみ、精一杯勉強し、後で振り返った時に「色々な意味で良かった」と思えるような大学生活にしたいと思います。

私の大学生活

食料科学コース4年生 小林 優太

高校時代の私は、まさか高知に来るとは考えてもいませんでした。しかしあと4か月ほどで高

知大学を卒業しようとしている今、振り返ってみるととても充実した大学生活でした。

まず私が高知にきて良かったと思うことは、ずっと挑戦してみたかったストリートダンスのサークルに入ったことと、本場のよさこい祭りに参加できたことです。サークルでは今までダンス経験がなかったため初めは苦労しましたが、学園祭に向けてみんなで練習を重ねていくうちに、たくさんの友人や思い出をつくることができました。また私は高知に来るまで高知県がよさこい祭りの発祥地だと知りませんでした。しかし1年生のときに大学のチームで初めてよさこい祭りに参加して、町中がよさこい一色になっている高知ならではの雰囲気や、人々の熱気に一気に惹き付けられました。三年生、四年生では学外の一般のチームでよさこい祭りに参加させてもらい、本当に楽しい夏を過ごすことができました。

2年生からは朝倉キャンパスから物部キャンパスに引っ越し、自然がいっぱいのキャンパスでこれから3年間大丈夫かなと感じたことを覚えています。しかし実際に過ごしてみると静かでのんびりしていて、住めば都とはこのことだなと強く思いました。

3年生の後期から希望していた研究室に所属され、野菜や果物に含まれるポリフェノールなどの抗酸化活性の測定などを行っています。就職活動も始まり、私は高校の理科の教員免許の取得も考えていたため母校での教育実習もあり、4年生の前期はとても忙しい日々を送りました。しかし就職活動では普段あまり関わるのできない多くの社会人の方を話すことができ、視野を広げ、また自分と深く向き合えることができたと思います。教育実習では今まで当たり前を受けてきた授業の裏で、どうすれば生徒に理解してもらえるかという先生方の苦労や工夫、熟練の先生の教授スキルを学ぶことができました。また、人前

で話す際の話の組み立て方や、話し方など、これから社会に出てから役に立つ多くのことを学ぶことのできた充実した2週間でした。

卒業後、私は企業に勤め、社会人となります。高知大学での4年間で多くのことを学び、成長できたと思えることが少しずつ多くなりました。研究室で学ぶことのできた専門的な知識も卒業後の仕事で活かしていけたらいいなと思っています。残り少しの大学生活を無駄にせず、学生のうちにしかできない時間を楽しみたいと思います。

4年間を振り返って

食料科学コース4年生 高倉 眞子

この4年間は、本当にあっという間でした。よく、大学生活は人生の夏休みという言葉聞きますが、私にとっては人として成長し人生を大きく左右するとても大切でかけがえのない4年間だったと感じます。

1回生の頃は、慣れない場所での初めての一人暮らしでとても不安でしたが、しかし、いざ始まると新鮮な事ばかりで、何もかもが楽しかったです。

2回生からは物部キャンパスに移り、専門的な講義や学生実験も始まりました。レポートやテスト勉強に追われながらも、充実した1年間を過ごせました。

3回生の後期からは、生理活性物質化学研究室に所属しました。ここで私は頼れる先輩方とたくさんの留学生と厳しくも優しい金先生から、本当に多くのことを学びました。研究室での活動内容はもちろん実験ですが、実験をするにあたって何度やっても上手くいかないことや失敗することがたくさんあります。そのときに、先輩方や先生方のアドバイスを頂きながら、失敗の原因や解決策を試行錯誤を繰り返しながら見つけてき

ました。日々、自分で計画を立てて実験を行って
いく中で、考える力を身に付けることが出来たの
ではないかと思います。現在は、卒業論文に向
けて毎日実験に取り組んでいます。何度も何度
も失敗し、辛いこともあります。残り僅かな学
生生活を全力で頑張りたいと思います。

4年経った今一番強く感じていることは家族・
友人への感謝と大切さです。これはすごく当たり
前のことではありますが、親元を離れて一人暮ら
しを始め、親のありがたみや愛情を強く感じまし
た。これまで、好きなことを思いっきりやってこ
られたのは、いつも応援してくれていた両親や兄
のおかげです。また、一人で心細いときや行き詰
まったときには、いつも友人が助けてくれました。
それだけではなく、共に勉強や実験に懸命に取り
組んだり、大学生の内しか出来ないような楽し
い思い出もたくさん作ったりすることが出来まし
た。私の学生生活が、こんなにも充実しかけが
えのないものに出来たのは、多くの個性あふれる
魅力的で大好きな友人たちのおかげだと心から
感じています。数ヶ月後には、大学を卒業して社
会人になります。4年間で得た多くの思い出と経
験と能力を糧にして、これからも懸命に努力をし
ていきたいと思っています。高知大学で出会った友
人、先輩方、先生方、そして大学に通わせてくれ
た両親に心の底から感謝しています。

高知大学

生命化学コース2年生 黒田 健渡

高知大学に入学し初めに思ったことは町から
離れていて少し寂しいなということでした。これ
はキャンパスが変わった今でもそう思います。キ
ャンパスの周りに何もなくて驚きました。ただ、言

い換えるとこれは勉強に専念できる場所である
ということだと思います。

そして、高知県の交通の便の悪さも想像以上
でした。朝倉キャンパスに居たころにはそこまで
感じませんでしたが、物部キャンパスに移動して
からは強く感じるようになりました。特に雨の日
などは、大きな通りを車が行き交う中を自転車で
通学し、車の撥ねた水で濡れたり、車の風圧で
顔に当たる雨粒が痛いときもあります。私は自転
車をメインの交通手段として利用しているのでこ
のように思うことが多いのかもしれませんが、車
などを所持している人からはまた違った景色が
見えるのかもしれませんが。

勉強の面では2年次になり、1年次ではほとん
ど扱われなかった専門の講義も始まり一気に学
ぶ内容の難易度が上がりました。1年次にやって
いなかった分、高校の時との知識のギャップもひ
どく座学はかなり苦戦しました。2年次前期はそ
んな中でも比較的時間にゆとりがあったため読
書や自分のやりたいことに時間を費やすことが
できました。

しかし、後期になってからは平日はほぼ毎日
のように実験が続き、そのレポートに追われる日々
となりました。メ切が迫り少しだけでも手を付け
て、早くやっておけばよかったと思うことが何度
もありましたし今でもあります。そして、忙しくな
ると食事も雑なものになりがちでインスタントやレ
トルトの食品を使うことが少し増えました。

実験は忙しく、その日の終了時刻も基本的に
未定のためその後の予定が立てにくく大変な思
いをすることもありました。このように悪いこと
が多いように思われる実験ですが、20日ほども
教員がつきっきりで面倒を見てくれるため、きっ
ちりと学ぶことができます。

このように、大変な生活を送っていますが高知
大学に来て様々な人と出会えたということはとて

も良かったと思います。地元だけでは出会うことのできなかつた様々な出身の人たちに出会いいろいろな考えを知ることができました。このようにたくさんの人と出会う機会を与えてくれた親や周りの人に心から感謝したいと思います。

興味を持ったことには全力で

生命化学コース3年生 奥宮 瑞季

高知大学に入学して早3年が経ち、大学生活も残り1年半となりました。これまでの大学生活を振り返ってみると、私は実家生ということもあり、周りのように新生活という感覚もないまま、なんとなく大学生活を過ごしてきたような気がして、このままの大学生活でいいのかと焦りを感じていました。しかし、3回生になり、いざ研究室に所属してみると、そこには、興味を持ったことにはほとんど取り組む教授と、研究を楽しむ先輩方の姿があり、私もこうなりたいと思うようになりました。

これまでは、特に目標もなかった大学生活でしたが、一つの目標ができました。それは、『自分が楽しいと思ったことは、全力でやる』ということです。この目標ができてからは、毎日の過ごし方も大きく変わっていきました。

初めて、研究室の3回生で化学物質の合成を行った際に、最初は要領も悪く、失敗も多いため、戸惑うことも多かったのですが、ようやく合成が成功した瞬間には、達成感とともに感動を覚えました。また、一人一人が、今何を求められているのか、次は何をすべきなのかを常に意識しながら実験を進めることができるようになりました。なにより、この実験を通してお互いの信頼関係を築けたことが、今振り返ると一番大きなことだったと思います。

その他にも、野外で研究することで、研究室だけではわからないことも、違う視点から見ることによって新たな発見があることがわかり、またその発見を追求していく面白さ、楽しさも実感できました。今後、自分の研究テーマが決まった際には、これまでの体験を生かして、全力で取り組んでいきたいと思っています。

また、研究室には留学生も多いため、日々のコミュニケーションでは英語が多く使われています。そのため、初めは自分の言いたいことがうまく伝えられず、悩んだこともありましたが、留学生がわかりやすい英語で話しかけてくれるので、私も積極的にどんどん話していこうと心がけるようになりました。社会に出ても、この積極性を忘れないようにしていきたいです。

最後に、残り少ない大学生活となりましたが、両親には改めて、これまで支えてくれたことに感謝しています。感謝の気持ちを忘れずに、これからも頑張っていきたいと思っています。

今日までの大学生生活を振り返って

自然環境学コース2年生 齋藤 亨矢

大学に入学して1年と半年が過ぎました。この1年半はあっという間でした。大学生活は初めてのことばかりで、短く感じても濃い日々を過ごしたと思います。

入学当初、見知らぬ土地で生活することに不安もありましたが、楽しみでもありました。一人暮らし、友達作り、専門的な授業、部活動、サークル、バイトなど新しい環境は楽しみでいっぱいでした。これまでほとんど料理なんてしたことがなかったのに急に自炊を始め、節約を考えて生活する。友達は日がたつにつれ徐々に増えてい

く。授業の中で興味があったことにさらに興味をもつ。部活動で先輩や他学部の学生と知り合う。初めてのバイトで生活費を稼ぐ。普段の生活は初めて挑戦することが多く、新鮮で楽しいものでした。しかし、そんな生活も1年もたつと慣れてしまい、楽しいと感じなくなりました。1年生の後半はなんだか物足りない感じがして、正直言ってつまらないと思っていました。

2年生になるとキャンパスが変わり、住むところが変わり、新たな生活がまた始まりました。やはり、これまでと異なる環境で生活するのは刺激があって楽しかったです。そして半年たった今でも今の生活は楽しいと思います。これは毎週金曜日の自然環境学実習が楽しいから生活に慣れても満足しているのだと思います。

実習の内容は様々で、1学期は畑で野菜を育てたり、動物園での動物観察、海に行き海洋生物の採取、観察、そして宿泊実習もしました。自然環境学実習では座学よりもとにかく経験をするというような内容が多く、ただ本を読み知識を得ることよりも多くを知り、生の情報を得ることができます。昆虫採集でもどんな植物に集まるかをあらかじめ先生から聞いていても、その植物のどこに隠れているのかわからないなんてこともありました。実習では前もって講義で聞いていた話でも実際にやってみるとわからないことが出てきたり、興味をもって後から調べるきっかけになったりするので、ただ知識を得て知った気になるのではなくちゃんと身につく知識を得ることができますと思います。様々な実習が多い自然環境学コースに入って本当に良かったと思います。

大学に入学してこの1年半は学内でも学外でも多くの初めての経験し、たくさん学びました。まだ大学生生活は2年と半年ほどあります。この残りの時間もあつという間に過ぎていくと思います。この時間を無駄にしないようこれからも多く

のものに触れ、学内、学外を問わず学び続けようと思います。

自然環境学コースに入って

自然環境学コース3年生 野田 大夢

暑かった夏の日々も過ぎ去り、寒さが身体にしみる季節となりました。

高知大学に入学してあつという間に3年が経過し、楽しかった大学生生活も日々終わりに近づきつつあります。

私は現在、農学部の自然環境学コースに所属しております。自然環境学コースではいわゆる座学のような聞いて学ぶ授業だけでなく、フィールドに出て昆虫や植物を採集したり、実験室で薬品を扱ったりするなど、実際に触れて学ぶことができる実習の授業が多いコースです。他のコースで学ぶようなことも幅広く学べる、とても充実した大学生生活を送ることができる素晴らしいコースだと思います。

実の所、1年生のときはどのコースに入ろうか、とても迷っていました。魚のことに興味があったので海洋のコースや流域関係のコースにも入ろうと思ったこともありましたが、迷いながらも最終的には、小学生のころから興味があった昆虫の研究ができる自然環境学コースを選択しました。

初めての实習の授業では、実際にフィールドに出て久しぶりに昆虫採集をしたり、採集した昆虫のことを詳しく調べたりして幼いころに戻ったような気分になりましたが、同時に自分の興味のあるものを深く追求し、知識欲を満たすことができる、本当の意味での大学生生活が始まったような気分にもなりました。また、座学の授業内容も1年生の時と比べて、より専門的なものとなり難しくなりましたが、興味をひかれる内容も多く、

今までよりも真剣な姿勢で授業に臨むことができるようになったと実感しています。今では自然環境学コースに入って本当に良かったと思います。

今は、分属した研究室で、来年の卒業論文の制作に向けて「トンボ」に関する知識を高めている最中です。元々興味があった昆虫ですが、自然環境学コースでの生活や授業、先輩からのお話を聞くことによって、より一層興味を持つようになり、卒業論文という機会の中で深く研究してみたいと思うようになった昆虫です。まだまだ持っている知識は浅いですが、尊敬する先生、先輩の元で、実際に触れて学ぶことで知識を高め、自分でも満足のいく卒業論文を制作していきたいと思っています。

そして卒業する際、充実した大学生活だったと心の底から思えるように、残り少ない日々を過ごしていきたいと思っています。

大学生活での学び

自然環境学コース4年生 岡戸 裕行

大学生活も残すところあと4カ月ほどとなりました。大学と高校までの一番の違いは、学び方だと思います。高校までは学ぶということはほとんどが座学で知識を得ることでした。しかし大学では、特に自然環境学コースでは2年生と3生前期まで毎週実習があり、川から山までさまざまな環境に足を運び、頭だけではなく体を使って経験することでの学びが圧倒的に多かったです。実習の中で作物を育てるためにこまめに畑に草むしりをするので雑草はある程度の期間徹底的に抜き続けるとその後は全然生えてこなくなることや今まで「チョウ」や「花」とざっくり認識していた生き物の種を同定することで足や葉の形などどこを見れば見分けられるかなど、単語の

暗記と公式を使った計算だけが勉強ではないことを学びました。

また、大学生活を振り返ると学問以外での学びも多かったです。1年生のころは大学祭の実行委員を経験し、参加者を募りタイムスケジュールを組み当日の役割分担をするなど段取り力と呼ばれるような力を鍛えられました。2年生の春休みには3週間ほどタイに行き畜産について勉強した。そこで初めて見た屠畜場では、解体している牛の足が動くことや内臓の大きさに衝撃を受けながらも、「頂きます」の意味を考えさせられました。私は寮で生活しているのですが、3年生の時に寮の運営を任される立場となりました。寮運営のことで他の寮生から判断を仰がれた時に、自分より上の立場の人がそれでいいといったから、といった言い訳ができず、自分の意見に責任を持たなければならない重みや、誰にどのぐらいの仕事を割り振るかなど今まで経験したこのない種類の苦労や頭の使い方を学びました。4年生の今は、卒論で植物の形態に関する研究をしていますが、どの地点から植物を採取するか、採取した植物のどの部分を計測するのか、計測した結果からどのようなことが考えられるかなど今学びの真っ最中です。

高知大学での4年間は学びの多い時間を過ごすことができたと思います。また来年から私は大学院に進学するのでさらに多くの、かつ深い知識や経験を学びたいと思います。大学生活の中で学ぶことの楽しさや達成感、苦労を知ることができ、これからもさまざまなことを学ぶ姿勢を崩さないようにしようと思います。

.....

高知で得たこと

流域環境工学コース2年生 上柿 佳菜

私が高知大学を選んだ決め手は農学部のHPのデザインでした。当時やりたいことも定まらず、ただ漠然と自然に関わることがしたいと農学部を志望していました。高知大学を検索した理由も友達が進学先の候補に入れていたからだったと思います。農学部のHPはカラフルで可愛い子牛の写真が貼ってあり、楽しそうだと思います。

高知に来て、まず感動をくれたのは自転車でした。地元の大阪では駅に近いマンションに住んでいたのに、自転車に乗る機会は少なかったです。小中学校は自転車通学が禁止で、休日はあまり外で遊ばなかったのに、当時持っていた自転車はさび付いて、パンクしていました。高校は電車通学で、高校生が使うには小さすぎる自転車は捨ててしまいました。現在、大学ではどこへ行くにも基本、自転車です。物部キャンパスに移った後も、朝倉キャンパスには自転車で行きます。電車のダイヤに縛られることなく行動できるので、とても楽で自由です。体力もついてきた気がします。

入学した当初、1人で進学してきた私は内向的な性格を必死で変えようとしていました。少しでも興味のあることには挑戦し、挫折して、いくつかの活動はもう止めてしまいました。焦って自分にできること以上のことをいつもやろうとしていました。すごくしんどかったですが、楽しかったです。何かする度に応援してくれる家族の有難さに気づき、しっかり考えて自分の人生を生きようと思いました。

2年になり、コースも決まって物部キャンパスに移ってきました。本当に居心地の良い場所だと思います。朝倉よりも広々としていて、自由な感じが大好きです。私のいる流域環境工学コースでは

個性的で勉強熱心な友人がたくさんできました。JABEE認定コースなので、履修する科目がほとんど同じで、一緒にいる機会が多く、すぐに仲良くなることができました。難しい科目も多々ありますが、家族・友人・先生・周りの方々に恵まれて素敵な大学生活を送ることができています。残りの大学生活も精一杯、頑張ろうと思います。



流域コースで学んだ私の近況

流域環境工学コース3年生 中村 義実

私の所属する流域環境工学コースでは、流域すなわち川でつながる森林・農地・市街地・沿岸域までをフィールドとしています。そのフィールドのなかで山地・里山の保全、水環境の保全、水の利用、水・地盤災害の防止、農村・都市での生活環境の改善などに関する教育研究を通じて、流域に暮らす人間が水とうまく付き合い、自然と共存するための理論と技術を学んでいます。具体的には水理学や材料学、土質力学、構造力学、環境水質学、測量学、地域計画学、環境管理評価学などの講義や実験を通じて、流域という広いフィールドの中で農場整備や地震・津波からの防災・減災、河川の水質や生態系についてなどについて学んでいます。

今回私は流域環境工学コースの授業の1つ

である環境工学実習について話したいと思います。環境工学実習ではインターンシップとして9月5日から16日までの2週間、中国四国農政局高瀬農地保全事業所に行き、そこで行われている高知県仁淀川町高瀬地区で発生している地すべりの対策に関することを学びました。インターンシップでは実際に仕事が行われている事業所や現場に行くことができたため、大学の講義や実験では得られない経験をする事ができました。具体的には、高瀬地区の地すべり状況を聞き、実際に地すべりが発生している現場に行ったり、用水路の流量観測を行ったり、地すべり地に掘られた排水トンネルの中に入って排水量と水の電気伝導度、pHを測定したり、地すべりの移動量観測を行ったり、実習の最後に事業所内で職員に向けて実習で調べたことや感じたことについてプレゼンを行いました。流量観測を行った目的は、水量を測定することで水がどこにどのくらい使われているのかを知るために行いました。排水トンネルでの調査の目的は、排水量を測定することで地すべり地の地下に溜まっていた水がどのくらい排水されたかを調べ、電気伝導度を測定することで水が地中内でどこを通り、どのくらい長い間地中内に滞留していたかを調べました。移動量観測を行った目的は、地すべり土塊の移動量をせん断現象の形で観測し、活動しているすべり面の位置とその移動量を求めました。また、その移動量から地すべり対策が実際に効果を発揮しているのかについて調べました。

この環境工学実習で私は大学で学んだことを実際に事業所で活かすことができましたが実際に現場で働くにはまだまだ知識や経験が足りないことを実感しました。これからも大学生活は続くので、就職してから大学で学んだことを活かせるように努力したいと思います。

感謝の尽きない大学生生活

流域環境工学コース4年 矢野 智之

私は高校卒業後、すぐに大学へ進学したわけではありません。浪人をしたということでもありません。共に入学をした友人とは、大きく経歴が異なります。

私は高校卒業後、化学を専攻とする専門学校へ進学しました。当時は就職氷河期と言われた時代で、就職がなかなか決まらなかったことを覚えています。ようやくの思いで就職を決めた会社は、家電量販店の販売員と学んでいたこととは異なる畑違いの会社でした。会社の同期は大卒の人しかおらず、休憩での会話は大学の話。大学を出ていない私には聞くことしかできず羨ましい反面、とても新鮮な話でした。その話を聞くうちに、私の中で大学へ行きたいという気持ちが生まれ、大学進学を目指しました。

いざ大学へ入学しても、同回生とは年齢が離れている。先生方もこんな私を受け入れてくれるか心配でした。しかし、私が考えていた以上にいらぬ心配でした。友人たちも年齢関係なく接してくれ、先生方も現役の友人達と同様に接してくれました。高知県がPRしている「高知県はひとつの大家族、高知家」。この言葉につきます。

就職活動も苦ではありませんでした。高知大学は地域と関連した授業が多く、卒業後に学んだことを十分に活かすことができる環境です。事実、私が内定を頂いた会社は第1希望の会社で、専攻している分野の会社です。以前働いていた畑違いの会社から、学んだことを活かせる会社へと進むことができました。

大学へ行きたいといった日から今日まで、両親に迷惑をかけてしかいません。その反面、感謝の気持ちしかありません。高知大学へ入学してからも、友人、先生方から蔑視されることもな

く、私個人を見て接してくれたことにも感謝しかありません。私を入学させてくれた高知大学にも感謝しかありません。人生をやり直すのに年齢は関係無いと言いますがまさにその通り。高知大学を選んで本当に良かったです。両親・友人・先生方、そして高知大学に御恩を返せるよう、社会で活躍していきたいです。

たくさんの経験を通して

森林科学コース2年生 高尾 弥優

大学生活が始まってもうすぐ2年が経ちます。1回生のときは朝倉キャンパスで過ごし、2回生になってからは物部キャンパスでの大学生活が始まりました。

2回生になると1回生の頃とは違い、各コースに分かれて専門的な勉強をするようになりました。森林統計学や森林測量学など、初めて受ける分野の授業では、難しくて苦しかったこともありました。先生の力や友達との助け合いで乗り越えることができました。

森林科学コースでは多くの実習があり、実際に見たり聞いたり体験したりすることができます。樹木学実習では、何種類もの樹種を、葉の特徴から判断できるようにたくさんの葉を採取しました。最初はどれも同じように見えて嫌になることもありました。葉を区別できるようになると少しずつ実習が楽しく感じるようになりました。樹木学実習が終わった今は、山に行ったときに知っている葉を見つけることが、山に行くときの楽しみの一つになっています。

実習の中でも特に印象に残っているのは演習林実習です。この実習は、高知大学の演習林で、約1週間泊り込みで行われる実習です。実習中

は、鉋を使って細い木を切ったり、急斜面を登山、下山したり、急斜面で測量したりと、初体験のことばかりでした。初体験のことばかりで戸惑いや不安もありましたが、それ以上にわくわく感や楽しさがあり、それがあったからすべて乗り切ることができたのだと思います。実習が終わった後には、みんなで焚き火をしたり、バーベキューをしたりと、森林科学コースのみんなと仲良くなれる場も多くあり、それも全て含めてとても良い実習になりました。

2回生になってから初めてのことを多く体験しましたが、学校の授業以外でも初めて挑戦したことがあります。それは、山の中をランナーさんが走るトレイルランニングレースのスタッフです。このイベントの存在は去年から知っていましたが、先輩からの誘いがあり今年初めてスタッフとして参加しました。実際に参加してみると、トラブルもいくつか起こり忙しかったですが、人の役に立てることや、たくさんの人と交流できることに喜びを感じ、今では積極的に参加するようになりました。

大学生活はまだ2年ですが、このようにとても充実した生活を送れています。残り2年も挑戦する気持ちを忘れず、自分の成長に繋がる大学生活を送りたいと思います。

昨日 今日 明日

森林科学コース3年生 戴 云飛

大学生活もうすぐ三年ですが、振り返ると、入学のことはまだありありと目に浮かべます。出身の四川省は、自然が豊かで、風光明媚なところのため、同じく森林率日本NO1の高知へ参りました。また、当時は地元の観光地を改善したいため、森林科学コースにしました。入学当初は希

望に満ちあふれ、なんでもできる、これからの時代の幕開けといった意気込みがありました。

大学の一年目は共通教育があったので、いろいろな専門の授業が味わえました。ボストンというバスケのサークルのおかげで、たくさんの友達ことができました。二年目になって、専門の勉強を始めたことで、測量学、統計、樹木実習などの難しい授業がたくさんありました。けれども、測量学は同回生の仲間と協力しながら一生懸命に図を作りました。今年夏の演習林実習も、実際に森林に入って、目で観察し、自然に触れながら、学習ができました。実習後は同回生と話したり、ゲームやったり、友情も深めました。

大学生活も僅か一年となり、言いたいことは時間の使い方の難しさです。大学生活は4年間もあり、時間が膨大にあります。この時間を有効に使えるかどうかで、有意義になるか否かが決まると考えます。アルバイト、サークル、旅行などに費やすことも良いですが、本気で取り掛からないと中途半端なものになってしまいます。また、行動に移すことの重要性です。頭で考えているだけではなく、行動に移してこそ実りのあるものになります。もし、留学という行動を起こさなかったら、今の楽しさは得ていないでしょう。

最後に、これからの一年間、研究の取り組み、就職活動の積極的な行動。結局はどんな結果でも、後悔はしないように、頑張りたいと思います。失敗を恐れずに最後まで挑戦し続ければ、自ずと成長し高みに上がっていけると思います。

お世話になりました！

森林科学コース4年生 西原 秀和

はじめまして！森林科学コース4回生の西原秀和と申します。この度、「学生の近況」の執筆依

頼を頂き、とても嬉しく思います。まだ振り返るには早い気もしますが、私の大学生活での学び、気づきについて少しお書きします。

私は森林科学コースで森林に関する知識や、実習を経験してきました。授業を通して身についたと感じる点は、測量の技術や知識が身についたことや、木の樹種名がほとんどわかるようになったことです。どちらも好きな授業でしたが2回受講しました。

実習は演習林にある宿舎に宿泊し、1週間ほど山に籠って行いました。体育会系のため、山の中を歩き回るハードな内容の実習が得意でした。特に、植樹作業が印象に残っています。しんと雪が降り積もる中、植樹作業をした時のハードさは今でも忘れられない思い出です。

山地測量の実習では、自分の担当していた測点がおおよそ2度ずれていて同じ班の仲間達には大変申し訳ないことをしたと反省しています。卒業後は測量関係の仕事をしていくため、これからは2度ずれることの無いよう精進して参ります。

他にも色々なことがありましたが、森林科学コースの先生、先輩、同期、後輩の支えがあり何とか乗り越えることができました。本当にありがとうございます。

また、バレーボール部に所属し人間関係の大切さを学び、一緒に苦しい練習を乗り越えてきた友人ができました。元々、初心者で入部した私でしたがバレーボールは結局うまくなれませんでした。ですが、かけがえのない仲間に出会うことができバレーボール部に入って良かった！と心から感じています。保護者の皆さん、お子さんが部活動をやりたい！と言っていたらぜひ高知大学バレーボール部を薦めてあげてください。

それから最後に、お父さんとお母さんにいつも迷惑ばかりかけていました。久しぶりに連絡してきたと思ったら、お金をせびるばかりで本当に

すみません。最後のほうで書くのもなんですが、1年留年して5年間、大学に通わせてもらって多くの人に出会い、様々な事を学ぶことができました。感謝しています。

来年から就職し、社会人となります。これからは今までお世話になった方々に少しずつ恩返ししていきたいです。

、、、その前に卒論と授業が残っているのでがんばります。

国際支援学コースの魅力

国際支援学コース2年生 後藤 啓太

2回生となり、物部キャンパスでの学生生活を始めてからすでに半年が経ちました。この半年間を思い返すと、朝倉キャンパスでの学びとの違いを改めて実感します。座学の講義ではよりいっそう専門的な内容を学べるようになり、また、そこで得た知識を実習で発揮できるようになったのです。実習では、高知県大豊町の怒田という地域で田んぼや畑をお借りし、米やイモ類の栽培をしました。収穫した農産物は、コロッケやイモ天、かき揚げなどに加工して、農学部で毎年行われる「物部キャンパス一日公開」で販売しました。自分たちが世話をした農産物を収穫する瞬間がとてうれしいのはもちろんですが、収穫物を地域の方々が笑顔で召し上がってくださる姿を見るのは、その何十倍も幸せでした。

作物栽培の実習だけでなく、国際支援学コースならではの实習も数々経験してきました。中でも印象に残っているのはマレーシアでの海外実習です。マレーシアの農学を学びながら現地の学生と仲を深めた10日間は、人生で最も有意義な時間だったように感じています。この実習で

きた、多くの学生たちとのつながりは近い将来必ず役に立つでしょう。



このように実習や講義で忙しい中、私たち2年生は自分の将来のことについてもよく考えなければなりません。来年には研究室の分属、その後は就職活動や卒業論文など、悩ましい課題が山積みです。正直、自分のやりたいことをまだはっきりさせられていない私にとっては、今この時期は将来の道を左右する大切な時期です。

このように壁にぶつかったときに一番頼りになるのは、やはりコースの先輩方です。先輩方の多くも私と同じ壁にぶつかった経験があるということで、時には昼食を一緒に食べながら、時には畑仕事をしながら、いつも親身になって相談に乗ってくださいます。先輩方の、やりたいことや夢を追いかける姿勢にいつも励まされ、あこがれを抱いています。

農学部は今年度から海洋農林科学部が変わ

り、国際支援学コースは私たちの代で最後となります。なので、来年直属の後輩が来ることはありませんが、私と同じような悩みを持った人はきっと現れるでしょう。そんな時に、先輩方のように相談に乗ってあげられるよう、自分自身の道をしっかり見つけて、夢に向かって貪欲に成長していきたいと思います。

私の選択

国際支援学コース3年生 名嘉真 由記

皆さんはどんな理想を抱いて大学に入学してきたでしょうか。そしてどのような選択をしてきたでしょうか。人にはそれぞれの大学生活があるが、私は様々な地域・活動・農業と関わることを選んだ。これが私の選択だ。

私は学生ボランティア団体 MB に所属している。毎週日曜日に大豊町の八畝集落で農作業、そして焼酎作りなどの六次産業を行っている。八畝に住まわれている大谷さんご夫妻は私たちの活動や生活のことまで気にかけてくださり、本当の家族のように接してくれる。私にもバイトだらけの生活をしている時期があり、バイトと学校だけの生活に疲れとストレスを感じていた。そんな中でもたまたま MB に参加し、気の合うメンバーや大谷さん達と作業をしている時間は私にとって“本当の自分”でいることができる時間だった。そこでしっかり自分がやりたいことに向き合おう!と、自分のやりたいことへ時間を投資するようになった。

さらに、私は SUIJI (香川・愛媛・高知の三つの大学とインドネシアの三つの大学で協働して農山漁村地域での活動を行うプログラム) に参加した。今私が所属しているコースも研究室も全て SUIJI に参加したからこそこの選択だ。SUIJI

では両国の農山漁村で持続的な発展につながるような活動を行うことを目的とする。私は初めに愛媛県の蔦淵という集落で活動を行った。蔦淵には村の方々が中心となって結成した“こもねっ”という企業組合があり、蔦淵の美味しい魚介類等の販売に力を入れている。私は地域の人々にこもねっの鯛の加工品を高知大学の学食で販売することを提案し、実際にもう一人の有志と共に生協さんに取り扱いのお願いから販売のお手伝いまでを行った。インドネシアの活動は東南アジアに興味を持つことに繋がった。インドネシアの村の農業を見たのがきっかけで私の興味のある分野にも出会うことができた。さらに現地の村で頑張っている農民の姿を見て『こういう人たちのお手伝いをしたい』と強く思うようになり、留学への挑戦を決めた。

これらの選択は間違いなく私の大学生活を豊かにし、たくさんの出会いやきっかけを与えてくれた。たくさん悩むこと、迷うこと、躊躇することもあったが、思い切った私の選択は今では正しかったと自信をもって言うことができる。これまでの全ての出会いに感謝して、これからも頑張っていきたい。



昔を経験できる機会

国際支援学コース4年生 阪本 啓太

私は卒業論文のテーマを選ぶ時に国際支援学コースに在籍しているのだから国外を対象国としたいと思い、担当教諭からの提案していただいた「タイの水田調査」というテーマに飛びついた。私はそれまでに同じ東南アジアであるインドネシアとマレーシアに1回ずつ行っており、そのうちインドネシアでは体調を崩してしまったので今回はそのリベンジだという意気込みでタイに向かった。2週間の調査期間のうち最初の1週間は何も問題なく調査は進んでいった。

しかし、半分を過ぎたあたりで急に体調を崩してしまい2日間嘔吐に悩まされてしまった。加えて食欲が一切湧かず3、4日ほどまともに物を食べることが出来なかった。原因がタイの辛い物を食べ過ぎたことにより胃腸がストレスを感じたからだということだった。インドネシアやマレーシアも辛い物は多かったので耐性が付いていると思っていたので少し驚いた。(インドネシアの時よりも体調悪化が酷くなってしまうとは、なんとも情けない話である)。調査方法がある1地点を拠点としてそこを中心に調査する物ではなく、常に移動し毎日別の場所に宿泊していたのでずっとホテルに籠って休んでいるわけにもいかなかった為、なかなか大変だった。

そんな時に今の日本では経験できない経験をした。体調を崩して2日後、朝食のためによった店で、その店の人と調査を手伝ってくれていたタイの大学の人が私の体調について話していたらしく、店の人から薬草か何かを擦って粒状にした薬をいただいた(今でも民間の間では使われ続けているだけあって効き目は良かった)。日本でもタイでも化学医薬品が多く用いられ、薬草などを原料とした物が無くなりつつある中で、昔

の知恵である物を体感できるのは貴重な経験であった。このように「昔」を経験することは昔の人々の人生や経験を自分の物にできるということである。そのため知識だけでなく考え方を取り入れ「今」や「先」をよりよい物にできる。しかし、このような「昔」を体験できる機会はどんどん少なくなってきている。私も二十歳前後の未熟者なので足りないものがまだまだたくさんあるので、今後も「昔」を通じ幾つもの経験をしていくつもりである。

高知の生活

総合人間自然科学研究科農学専攻2年生
アラム・モハメド・メスカツル

私はバングラデシュからの留学生です。高知での生活について紹介します。私の日本での生活は昨年2015年10月1日に空港に到着し在留カードを渡された時から始まりました。指導教員の先生に高知空港まで迎えに来ていただき、高知大学国際交流会館に住み始めました。建物は古いですが、生活環境は快適で特に夏季は過ごしやすいです。物部キャンパスは、授業を行う教室の設備が充実し、研究室も立派ですが、何よりも、すぐそばには綺麗な水が流れる物部川など、美しい自然を育んだ場所にあり、ウォーキングも楽しんでいます。また、キャンパスから高知市内へのアクセスも問題ないです。先生がたには私たちの勉学に対して多くの助言・指導をいただいています。実際、毎日の生活において学務係などの大学の事務室職員の方々をはじめ、市役所、スーパーマーケット、警察署などにおいても、ほとんどの日本人は礼儀正しく親切に我々の生活の支援をしてくれます。また、日本人の子供が、我々外国人に多大な好奇心を持って接してくれることが嬉しいです。高知の気候は暑すぎでもなく、寒すぎでもなく過ごしやすいです。物部キャンパスの近くには太平洋があり、また、雨が降った後の山々もいきいきとしているように見えます。高知には美しい場所が多く、県立野市動物園に行った時に多くの動物とともに美しい森林を初めて身近に見ることができました。また、高知市の中心部にある高知城は素晴らしい歴史的建造物だと思います。私はビーチが好きで、とくにいろいろな施設が完備し、美しいビーチがあるヤ・シーパークがお気に入りです。夜明けや夕暮れの光景は格別です。日本の食べ

物は美味しく、とくに寿司と刺身が好きです。また、冬場の鍋料理も美味しいです。麺類の種類も多いです。高知は新鮮な魚、フルーツや野菜など美味しい食材の宝庫です。私は高知が好きです。また、ここ高知で生活していることに誇りを持っています。

進学して増えた経験値

総合人間自然科学研究科農学専攻2年生
川龍 祥子

甲殻類の色についての研究をしています。研究をより進めたいという思いから大学院へ進学しました。修士ではより自発的に動くことと知識を深めることが求められ、研究者としてのふるまいを求められるようになります。また、先輩として後輩の研究や研究室での生活をサポートし指導する立場になりました。先生方の補佐としてティーチングアシスタント(TA)として、学生たちへの指導やセッティングなどを行います。まだまだうまくいかないことや不勉強な点など多くありますが、先生や先輩方のサポート、自分のこれまでの経験を活かしながらやっています。研究室での生活は、上回生を中心に基本的に学生が取り仕切り、実験室の掃除や器具の管理、研究室行事の調整や企画などを行います。水産物を扱う研究室なので、サンプリングしてきた魚や釣った魚をさばいてみんなで食べたりしています。研究室での共同生活を通して、交流しながら共同ルールも再認識していきます。



漁師さんから聞いた「ボンジュースを入れるとエビが赤くなる」説の検証実験



住宅街で捕まえて食べたすっぽん

研究は、学内だけでなく他機関からの協力も得て自分の専門分野だけではカバーできない領域や技術を補いながら進めています。質問や意見を受けるたび、もっと勉強しなくてはという思いと、様々な視点でテーマを捉えて

いくことの重要性を感じます。また共同研究を通して、今までやったことのない分野の知識や実験に触れることができ、貴重な経験をさせていただいています。徳島県の水産試験場との共同研究ではエビの飼育試験に携わらせていただきました。普段は生き物を扱う機会がないので楽しい経験でした。今年の秋には水産支部例会にて研究発表をさせていただきました。学外での発表はとても緊張しましたが、他の研究者の方々からご意見や質問をいただき議論できたことで、すこしだけ学生から研究者へ近づけたように感じます。学部を合わせて3年間の研究室生活で様々なことを学び、経験の引き出しが増え、就職活動での自己分析やアピールに役立てることができました。また、研究のみならず社会で活動していく上での心構えや考え方を身につけられたと感じます。

春には2年間のゴールである修士論文発表が控えていますが、少しでも満足できるものに近づけるように努力していきたいと思えます。

私の発信

総合人間自然科学研究科農学専攻2年生
野村 凜

『発信する』。これは私が約2年間の修士課程

を通し、最も重要だと思ったキーワードです。私は、大学3年生のときから研究室に所属し、農作物を主とした高知県産特産品の機能性物質について研究しています。所属した当初は、分からないことだらけで不安な気持ちになることがありましたが、研究室の先生方、先輩方のご指導のおかげで、さまざまな実験技術そして知識を得ることができました。

その知識を活かす機会として、修士課程に進学し、研究対象が「四万十町産ショウガ」に決まりました。ショウガはもちろん食べたことはありましたが、好きな食べ物の一つです。生産量が全国1位であり、高知といえばショウガというイメージも少なからず持っていたため、親近感を抱きながら、「四万十町のショウガ」を解明するために研究に取り組むことができました。一方で当時、分析試料を頂き、分析するという一連の流れを繰り返すだけの研究に少しだけ、物足りなさを抱いていました。

しかしながら、この気持ちはすぐに一掃されました。まずは、自分の研究結果を報告する際はメールではなく、実際に四万十町のJA、役場の方々に向けて発表し、四万十町産ショウガの特色を探索していきました。次にショウガ農家の方々の収穫を手伝い、農家の方々のショウガにかける想いを感じ、交流を深めることができました。その後、毎年開催される「四万十ショウガ祭り」に参加し、研究発表の場を頂き、こうして多くの人と、ショウガを通して関わりを持つことができ、私自身もショウガが大好きになりました。これらのとても貴重な経験から、確かに研究することは大切ですが、それを『発信』しなければ、無駄になってしまう、ということをも身を持って感じました。

私の『発信』はこれだけでは終わりません。高知大学物部キャンパスで行われた一日公開で

は、研究室の学生と一緒に四万十県産のショウガシロップを使用したジンジャードリンクを販売しました。「生姜ってこんなに大きいんだね!」、「ショウガシロップって飲みやすくて美味しい!」など、県内外の人たちがとても興味を示していただきました。笑顔で飲んでくださったお客さんの言葉や表情を直接感じることで、皆さんにショウガの素晴らしさを知ってもらうことができたのではないかと感じました。

学生生活もあと数ヶ月、自分が四万十町産ショウガを研究している喜びを噛み締めて、悔いの残らないよう、今後も『発信すること』を続けていきたいと思います。



自信

総合人間自然科学研究科農学専攻1年生
庭田 一平

あと1か月で2016年も終わろうとしている。今年もあっという間に過ぎていった。そして、いつの間にか高知に来て約5年も経つ。入学当初の予定では4年で卒業し、他大学の大学院に進むつもりだった。けれど、この予定は大幅に変更し高知大学の大学院に進学した。私が高知大学の大学院に進もうと思うようになったのは、他の大学の研究より私が所属している研究室の先生のやっている研究が好きで面白いと思ったからだ。

私は今の研究室に所属するまでは高知大学の学生だと胸を張って言うことができなかった。ど

うしてもほかの大学と比べてしまい自信を持てずにいた。しかし、研究室に所属してから考え方が変わった。

私が今所属している研究室を選んだ理由は自分が絶対に成長できる場所だと思ったからだ。実際に所属してみると、研究室の先輩たちはとても優秀な人たちばかりで得る物は多かった。周りのレベルが高く、先輩たちに鍛えられ、自分が成長しているのを感じることができた。この頃から少し自信を持つようになった。そして、自分の研究テーマをもらい実験をするようになってから考え方が大きく変わった。

当研究室の研究テーマは私にとってすべて面白いと思えるもので、その中でも私はワタアブラムシの寄主転換について研究している。ワタアブラムシの寄主転換の研究は昔から行われてきているが未だ解明されていない。しかし、当研究室では他の人たちが解明できなかったことを解明する手がかりを発見することができた。もし、解明することができたら、世界で一番初めに答えを知ることができると思うと胸が高鳴る。これだけ面白い実験をし、なおかつ世界でこの研究室でしかできないことだと思うとさらに自分に自信を持つようになった。この研究室を選んで本当に良かったと思う。

来年から本格的に就職活動が始まる。恐らく悩んだり不安になったりすると思う。しかし、自分がやってきたことに自信を持ち、他の研究室、他の大学に負けていないと思いながら頑張っていくつもりだ。

最後になるが、大学生活をすべての面でサポートしてくれている両親になかなか直接言うことができないので、この場を借りて感謝を伝えたいと思う。いつもありがとう。

大学生活について

総合人間自然科学研究科農学専攻1年生
楯 智樹

私の大学生活の4年間は人生の中でもかなり密度の濃い時間だと感じています。1年生の頃は朝倉キャンパスのほうで農学部だけではなく他の学部の学生との交流も活発に行っていました。特に私は寮生活をしていたので四六時中誰かと一緒に行動するような生活でした。2年生からは物部キャンパスに移り、その中で自然環境学コースの人達と共に勉学に励んできました。印象的だったことは自然環境学実習の宿泊実習です。キャンパス外での自然や同じコース内での先輩達との交流は座学だけでは学習できないことでした。また、夏休みになって先輩達の研究材料のサンプリングに同行するようになりました。元々自然が好きで先輩達がどのような研究を行っているのに興味がありました。この頃から研究室の分属を意識するようになりました。3年生からは研究に対して本格的に考えるようになり、自分が研究室に入ってやりたいことを考えました。結果的に私のやりたいことが研究にできるとても嬉しかったです。研究室に分属してからは自分の進路についても考えました。就職と進学どちらが自分にとって良いことなのか周りの意見も参考にしながら私は進学を選びました。大学生活では研究に当てられる時間はあまり多くなく大学院でもっと研究がしたい、もっと専門的なことを学びたいと考え進学にしました。4年生では多くの時間を研究に費やしてきました。私の中で研究は一人でやるイメージが強くありました。実際そのような場面がありながらも多くは研究室の人と協力し合って互いに質の良いものに仕上げていくことが意外でした。当時の私は車を所有しておらず、研究対象となる植物を採取するには

誰かに連れていってもらい必要がありました。この研究室の人達は皆野外に出かけることが好きだったので快諾してもらい植物の採取に行くことが出来ました。

大学院に進学してからは自分の車を所有するようになり、自分の好きな時に野外での調査に行くようになりました。また、後輩が研究を始めてからは先輩としてアドバイスをしたり研究の手助けをするようになりました。大学院の生活もあつという間に進み、これからは就職活動にも力を入れていく必要があります。研究以外のことでも自分の満足いくような成果を残すようにこれからの生活を送っていきたいと思います。

研究室で得られたこと

総合人間自然科学研究科農学専攻2年生
石川 諒

今回、このような機会をいただいたこともあり、現時点での大学(院)生活を振り返ってみたいと思います。

私はもともと大学院進学は考えておらず、かと言って就きたい仕事も見つからないまま4年生になり、興味があった防災に関する今の研究室に入りました。しかし、私はあまり要領が良い方ではなく、なかなか成果を出すことができず何度も教授や先輩に怒られていました。私が属している研究室では様々な場面で社会人と交流する機会があり、社会とはどのようなところなのかというお話を耳にします。人それぞれ違う考えをお持ちなのですが、ただひとつ、皆さんが口を揃えて言っていたことがあります。それは、社会は成果を出してナンボの世界であるという話でした。頭ではわかっているつもりでしたが、自分の研究室での現状を思い返すと、私はこのまま社会に出た

ところでやっていけるのだろうかと不安になりました。現在所属している研究室では社会人の方と共に研究を行っています。それならこの研究室でさらに2年間、半社会人としての生活を送り、成長した上で社会に出たいと強く思い、大学院の進学を決心しました。そして周りの方々の協力を得ながら無事卒業を果たし、大学院へ進学することができました。

今では大学院生活も残り半年となりました。学部生だった頃と比べると少しは成長できているのではないかと思います。私は現在土木という業界で研究しているのですが、周りを見渡してみると、どこもお互いがお互いを助け合いながらひとつのものを作り上げています。私自身も何度も周りの人たちに助けていただけたおかげで今があります。研究を始めて約2年半、こういった様々な経験をして度々感じるがあります。それは“人と人との繋がり大切さ”です。これは土木に限らずどこの世界でもあてはまることなのではないかと思います。現在は大学院2年生ということもあり、研究室のリーダーとしての役割も務めなければなりません。しかしリーダーと呼ばれるにはまだまだ程遠く、周りに迷惑をかけることも多々あります。ただ、ここまでやってこれたのは周りの人達のおかげです。あと半年、少しでも成長して社会で活躍し、今までお世話になった皆様に恩返しができるよう頑張っていきたいと思えます。

英語はツール!!!

総合人間自然科学研究科農学専攻2年生
川原 悠

小さな頃から、森に囲まれて育った私は、森や木などは身近な存在でした。そして、高校時代

に森林の役割は二酸化炭素の吸収、空気や水の浄化、災害防止など数多くあることを知りました。こんな魅力的な森林科学の勉強をしたいと思い、高知大学に入学しました。森林科学は他の学科とは違って、化学、工学、物理、経済、生態・・・など幅広い視点で学ぶ事ができました。一見、幅広すぎて大丈夫かと思いがちですが、多くの事を経験し、有意義な時間を過ごす事ができました。そして、現在は大学4年から分属している森林資源材料学研究室で大学院生活最後の学年を過ごしています。

私が分属している研究室は主に紙やフィルムの機能化、オムツのリサイクル処理技術の検討、廃棄物の再資源化などがメインです。その中でも、私はインテリジェント機能紙の研究をしています。具体的には、インテリジェント材料（人体に類似した機能、例えば、寿命予知・予告機能、自己診断機能、自己分解機能および自己修復機能などの機能を適用した材料）の概念を“紙”に適用させる試みです。このような大きなテーマで3年間、多くの方々の支援・助言を頂いて研究を続けられています。

大学院の生活では、私の研究成果を国内外での学会発表、研究書籍への執筆、国際誌への原著研究論文の投稿、修士論文の作成など、担当教授の熱心な指導により多様な経験ができました。その中でも、国際誌への原著研究論文の投稿は、慣れない英語論文の執筆という事で非常に力が入りました。高校時代の教諭に「これから英語は学ぶ物ではなく、君たちのツールとなってくる」と言って頂いたことがこの年になって痛感しました。現在は、原著研究論文2本目を泣きながら作製中です…。昔の私に、もっともっと英語を勉強しろよ!! 本当にツールだぞ!! と伝えに行きたいくらいです。私の文章を読んでくださ

ている高校生&中学生の皆さんは、まだ間に合うのでどうかLINEの回数減らして、英単語を覚えて会話で使用できるように友人と遊び半分でもいいので実践してみてください。

大学院の研究生活以外にも、高知県教育委員会と高知大学の連携プログラムであるCST:理数系教員養成コース(コア・サイエンスティチャー)を受講し、理数系教育手法、プレゼンテーションの技法や理科教育研究の現状や今後、小中学校理科教育の在り方についての視点を学ぶ事ができました。このCSTプログラム(2年間)は、研究生活にどっぷり浸っている私に、新たな違った視点と刺激を受ける場であり、多くの現場教諭の皆さんと関わることで貴重な指導方法や生の声を聞かせて頂ける大切な時間となりました。

最後になりますが、大学と大学院の計6年間も学ぶことができたのは、両親の援助や理解があったからだと思います。また、高知大学農学部とご縁があり多くの友人や先生方と時間を共有できたことが幸せです。この場を借りて心より感謝申し上げます。残りの数ヶ月を大切に、今以上の成果を残せるように研究に励みたいと思います。

農山村での暮らしに触れて

総合人間自然科学研究科農学専攻1年生
浅山 久留美

高校3年間、通学中のバスの窓から見える田畑にあこがれを抱き、いつか私も農家になりたいという単純な思いで大学では迷うこともなく高知大学農学部へ進学しました。そして大学1年の時に受講した、地域協働実習Iという授業がきっかけとなり、高知県長岡郡大豊町怒田(怒田:“ぬた”と読みます)集落と関わることとなりました。怒田集落は、徳島との県境付近の山間部に位置する

棚田のきれいな集落です。第一回目の授業はシカ追いだったと記憶しています。シカ追いとは、決してシカを走って追いかけるのではなく、数名から数十名で二人一組のグループを作り、一斉に山に登ることをいいます。かつての集落では若者が日常的に山に入り山菜取りや林業などを行っていたため、シカによる農作物被害は少なかったそうです。しかし、近年は集落到若者が減り、山に登る体力がある人も少なくなったため、シカが集落到下りて来て、農作物を食い荒らすようになりました。そのために、定期的にシカ追いをを行い、シカを集落到寄せ付けないようにしなければならぬそうです。遠足で六甲山に登った経験しかない私にとって、登山用の道のない山に登るのは初めてでした。いきなり道なき山に放り出された衝撃と、気を抜けば落ちて死んでしまうのではないかという状況に驚きと興奮を感じました。それと同時に、この時、初めて農村の過疎高齢化というものを目の当たりにし、農山村での暮らしの一部を肌で感じた瞬間でもありました。

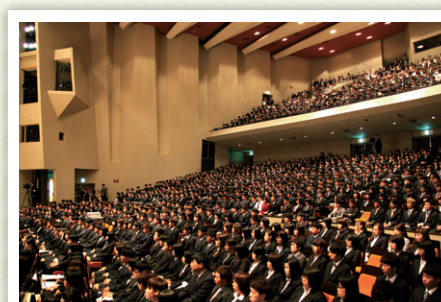
初めて訪れた土地でたいそうな経験をし、全身が筋肉痛におそわれたにも関わらず、私は怒田集落のとりこになり、その後も授業を越えて通うようになりました。農作業をさせて頂いたり、商品開発をさせて頂いたり、高知市内の市場や東京での商品の販売も経験させて頂きました。どの経験もとても新鮮でした。現在は、その大豊町で盛んに栽培されている、山菜の“ゼンマイ”とその栽培地の土壌環境を修士論文のテーマとして研究を行っています。ゼンマイの栽培適地・不適地について調査、研究することで、大豊町でのゼンマイ栽培に少しでも貢献できればと考えています。あっという間に過ぎた大学生活でしたが、残りの時間も充実したものとなるように大切に過ごしていきたいと思っています。

物部キャンパス PHOTO ALBUM

Faculty of Agriculture and Marine Science Kochi University
Monobe Campus



4月 April



平成28年度高知大学入学式



農林海洋科学部・農学部後援会総会

8月 August



オープンキャンパス
(高校生・保護者を対象とした進学説明会)



よさこい踊り 日章寮踊り子隊

10月 October



フィールドサイエンス実習(1年生を対象とした物部キャンパスでの授業)



物部区留学生交流懇談会でのよさこい踊り



ホームカミングデー

11月 November



物部キャンパス一日公開



津波避難訓練(年2回実施しています)



学生の学部長表彰

12月 December



消防訓練



日章寮餅つき大会

就職等進路状況資料

学部

平成23年度～平成27年度農学部卒業生進路状況(各年5月1日現在)

学部	卒業年度	2011(平成23)年度卒業 2012年3月卒業		2012(平成24)年度卒業 2013年3月卒業		2013(平成25)年度卒業 2014年3月卒業		2014(平成26)年度卒業 2015年3月卒業		2015(平成27)年度卒業 2016年3月卒業						
		区	分	計	男	女	計	男	女	計	男	女				
農	卒業者数	161	77	84	173	90	83	174	89	85	173	89	84	169	84	85
	就職希望者	101	41	60	103	51	52	119	55	64	113	52	61	121	59	62
学	企業等	76	28	48	78	37	41	92	43	49	95	39	56	95	44	51
	公務員	13	9	4	15	8	7	17	10	7	17	4	3	18	9	9
部	教員	3	1	2	2	1	1	3	0	3	2	2	0	1	0	1
	計	92	38	54	95	46	49	112	53	59	104	45	59	114	53	61
	就職率	91.1%	92.7%	90.0%	92.2%	90.2%	94.2%	94.12%	96.36%	92.19%	92.04%	86.54%	96.72%	94.21%	89.83%	98.39%
	進学者	50	30	20	60	34	26	43	28	15	50	30	20	44	23	21
	その他	19	9	10	18	10	8	19	8	11	10	7	3	4	2	2

(注)①就職率は、就職希望者と就職者の比率を示す。②秋季卒業生・早期卒業生を含む。③教員には臨時教員も含む。

高知大学 平成23年度～平成27年度 農学部卒業生主な進路先一覧

平成23年度(平成24年3月)卒業		平成24年度(平成25年3月)卒業		平成25年度(平成26年3月)卒業		平成26年度(平成27年3月)卒業		平成27年度(平成28年3月)卒業	
業種	企業名等	業種	企業名等	業種	企業名等	業種	企業名等	業種	企業名等
公務員	県庁職員(高知・大分・石川)	公務員	県庁(高知・兵庫・和歌山)	公務員	県庁(高知・愛媛・熊本・京都)	公務員	高知県庁	公務員	高知県庁、岡山県庁、鳥取県庁、徳島県庁
公務員	市町村役場(高知・福岡・岡山)	公務員	市町村役場(大分・高知・高砂市・坂出市)	公務員	市町村役場(香南市・香美市)	公務員	高知市役所、南国市役所	公務員	高知市役所、高松市役所、松山市役所
公務員	警察(高知・福岡・岡山)	公務員	警察(広島・岡山)	公務員	警察(大阪・広島・鳥取)	公務員	大阪府和泉市教員	公務員	愛知県立教員
教員	公立中学校	教員	財団法人中国四国酪農大学校	公務員	農林水産省中四国農政局	公務員	株式会社太田花き	農業	有限会社川淵牧場
製造業	湧永製薬(株)	製造業	山崎製パン株式会社	教員	公立中学校	公務員	株式会社えがお	建設業	丸和林業株式会社
製造業	株ダイショー	製造業	株式会社チチュアンナ	教員	公立高等学校	公務員	株式会社オイス	製造業	株式会社サントック
製造業	ヤンマーグリーンシステム(株)	製造業	アヲハタ株式会社	卸売・小売業	大信産業株式会社	製造業	ひまわり乳業株式会社	製造業	山崎製パン株式会社
製造業	タマノイ酢(株)	製造業	富田薬品株式会社	製造業	株式会社オイス	製造業	ハタダ株式会社	情報通信業	医療システムズ株式会社
製造業	愛媛製紙(株)	製造業	明星産商株式会社	製造業	関西エックス線株式会社	製造業	株式会社あわしま堂	卸売・小売業	関根株式会社
金融	日の出証券(株)	製造業	兵庫県農業共済組合連合会	製造業	兼松エンジニアリング株式会社	金融・保険業	株式会社高知銀行	卸売・小売業	大信産業株式会社
情報通信業	富士通関西中部ネットテック(株)	複合サービス事業	JA(西条・三原・福山・京都)の(に)	運輸業・郵便業	四国旅客鉄道株式会社	情報通信業	アルファテックソリューションズ	金融・保険業	株式会社四国銀行
建設業	日本基礎技術(株)	通信業	大分朝日放送株式会社	情報通信業	NTTマーケティングアクト	建設業	東亜建設工業株式会社	医療・福祉	徳島赤十字病院
農業	株田中農園	建設業	株式会社建設技術研究所	情報通信業	(株)高知通信機	農業	有限会社竹内園芸	複合サービス事業	馬路村農業協同組合
複合サービス事業	JA(ワルーツ)山梨・あかしま・岡山・(岡前)	複合サービス事業	株式会社日能研関西	複合サービス事業	高知市農業協同組合	複合サービス事業	高知市農業協同組合	複合サービス事業	生活協同組合くしま生協

学部 平成27年度 農学部卒業生就職等進路状況(平成28年5月1日現在)

学 科 コ ー ス 名	卒業生		就職希望者		就職者内訳						☆ 就職率 (%)	就職未定者内訳			進学等 大学院・ 専攻科・ 専攻科	就職を希望しない学生		昨年の 就職率 (%)		
	就業者		就職希望者		県内			県外				企業等	公務員	教員		公務員 再受給	不明			
	県内	県外	県内	県外	企業等	公務員	教員	企業等	公務員	教員										
暖地農学 コース	32	5	27	26	5	4	1	0	21	20	0	1	100.00	0	0	0	1	1	0	90.32
男	12	2	10	11	1	1	0	0	10	10	0	0	100.00							86.67
女	20	3	17	15	4	3	1	0	11	10	0	1	100.00				1	1		93.75
海洋生物 生産学 コース	32	1	31	20	17	1	1	0	16	16	0	0	85.00	3	0	0	0	0	0	93.33
男	16	0	16	9	2	7	1	0	6	6	0	0	77.78	2						100.00
女	16	1	15	11	0	0	0	0	10	10	0	0	90.91	1						88.89
食料科学 コース	23	2	21	18	1	1	0	0	16	13	3	0	94.44	1	0	0	1	0	0	100.00
男	9	1	8	7	1	6	1	0	5	4	1	0	85.71	1						100.00
女	14	1	13	11	0	11	0	0	11	9	2	0	100.00							100.00
生命科学 コース	20	2	18	10	2	8	9	2	2	0	7	6	1	90.00	1	0	0	1	0	100.00
男	15	1	14	8	1	7	1	1	0	6	5	1	87.50	1						100.00
女	5	1	4	2	1	1	0	0	1	1	0	0	100.00							100.00
自然環境学 コース	20	2	18	14	2	12	13	2	0	11	11	0	92.86	1	0	0	0	0	0	85.71
男	10	0	10	6	1	5	1	0	1	4	4	0	83.33	1						0.00
女	10	2	8	8	1	7	8	1	0	7	7	0	100.00							100.00
流域環境工 学コース	7	3	4	5	1	4	1	0	1	0	4	3	1	100.00	0	0	0	0	0	100.00
男	5	2	3	4	1	3	4	1	0	1	0	3	2	1	0	0	0	0	0	100.00
女	2	1	1	1	0	1	1	0	0	1	1	0	100.00							100.00
森林科学 コース	15	4	11	12	3	9	12	4	2	2	0	8	5	3	0	0	0	0	0	81.82
男	9	3	6	7	3	4	7	4	2	0	3	0	100.00							75.00
女	6	1	5	5	0	5	5	0	0	0	5	2	0	0	0	0	0	0	0	100.00
国際支度学 コース	20	1	19	16	5	11	15	5	4	1	0	10	7	3	0	0	0	0	0	100.00
男	8	0	8	7	2	5	6	2	2	0	4	2	2	0	0	0	0	0	0	100.00
女	12	1	11	9	3	6	9	3	2	1	0	6	5	1	0	0	0	0	0	100.00
合計	169	20	149	121	21	100	114	21	14	7	0	93	81	11	1	94.21	7	0	0	93.69
男	84	9	75	59	12	47	53	12	4	0	41	36	5	0	0	89.83	6	0	0	90.00
女	85	11	74	62	9	53	61	9	6	3	0	52	45	6	1	96.39	1	0	0	96.72

※ 本表は平成28年3月の学部卒業生の就職状況である。(秋季卒業生・早期卒業生を含む)(教員には、臨時採用教員を含む)
 ☆ 就職率=就職者÷就職希望者 就職未定者とは、就職希望者の内、就職が確定していない者をいう。

大学院 平成27年度 総合人間自然科学研究科農学専攻(修士課程)修了者就職等進路状況(平成28年5月1日現在)

専 攻	修了者		就職希望者		就職者内訳						☆ 就職率 (%)	就職未定者内訳			進学等 大学院・ 専攻科・ 専攻科	就職を希望しない学生		昨年の 就職率 (%)		
	就業者		就職希望者		県内			県外				企業等	公務員	教員		公務員 再受給	不明			
	県内	県外	県内	県外	企業等	公務員	教員	企業等	公務員	教員										
計	43	4	39	36	7	29	33	6	4	0	2	27	18	8	1	91.67	3	0	0	95.74
農学専攻	26	3	23	19	3	16	18	3	3	0	0	15	11	4	0	94.74	1	0	0	96.15
男	17	1	16	17	4	13	15	3	1	0	2	12	7	4	1	88.24	2	0	0	95.24

※ 本表は平成28年3月の大学院修了者の就職状況である。
 ☆ (秋季卒業生・早期卒業生を含む)(教員には、専門学校教員、臨時採用教員、就職希望者の内、就職が確定していない者をいう。
 ☆ 就職率=就職者÷就職希望者 就職未定者とは、就職希望者の内、就職が確定していない者をいう。
 ☆ 連絡の取れない者は、就職未定者企業欄に計上している。

平成28年度後援会総会について

後援会総会は、平成28年4月3日（日）入学式に出席された保護者の皆様の出席を得て、高知県民文化ホールグリーンホールで開催しました。

本総会では、後援会の名称を「農林海洋科学部・農学部後援会」に変更する規則改正、平成28年度事業計画・予算案、平成27年度事業報告・決算報告が承認され、次のとおり平成28年度役員が選出されました。

平成28年度農林海洋科学部・農学部後援会役員名簿

	役職名	氏名	学生名	学科・コース等	学年
①	会長	佐野 健一	佐野 朝咲	海洋生物	2
②	副会長	横山 志保	横山 麻香	生命化学	3
③	副会長	秋澤 成高	秋澤 成美	海洋生物	2
④	会計	大敷 直美	大敷 健斗	生命化学	4
⑤	監事	片岡 和教	片岡 美貴	農学専攻	1
⑥	監事	野本 衛	野本 翔太	生命化学	4
⑦	理事	坂出 佳代	坂出 知也	農学専攻	2
⑧	理事	依光 俊明	依光かほる	農学専攻	1
⑨	理事	小笠原美衣	小笠原大貴	流域環境	4
⑩	理事	酒井 久実	酒井 彩伽	暖地農学	4
⑪	理事	谷井 道生	谷井 勇太	海洋生物	4
⑫	理事	志磨村美智恵	志磨村悠斗	流域環境	3
⑬	理事	村田リエ子	村田 のん	自然環境	3
⑭	理事	山本 美保	山本 純士	森林科学	3
⑮	理事	中山 泰志	中山優里香	流域環境	2
⑯	理事	小島 一郎	小島 志郎	森林科学	2
⑰	理事	福永小百合	福永 涼太	暖地農学	2
⑱	理事	濱田 和彦	濱田 祥吾	農林資源	1
⑲	理事	澤田 伸夫	澤田 茉緒	農芸化学	1
⑳	理事	池田 ユカ	池田 拓司	海洋資源	1
㉑	理事	濱田 典明	濱田奈々子	農林資源	1

平成28年度 予算書

1. 収入の部

科 目	金 額	内 容
繰越金	965,749	前年度からの繰越予定
会費	4,380,000	入学者 (学 部)@30,000×140人=4,200,000 (大学院)@15,000× 12人= 180,000
雑収入	693	預金利息(H27年度実績)
計	5,346,442	

2. 支出の部

科 目	金 額	内 容
就職斡旋旅費等 助成金	1,500,000	学部充実費、図書充実助成費 就職斡旋等旅費、新入生歓迎実行委員会 大学祭実行委員会、留学生援助費 総会・役員会等会議費、本部等会議費、その他
卒業生送別費	1,100,000	(卒業・修了歓迎祝賀会) 学部、大学院
課外活動助成費	400,000	運動用具等
卒業記念品費	500,000	証書入れファイル、記念写真
後援会だより	600,000	印刷費等
事務経費	300,000	用紙類、文具類、通信費、印刷費等
予備費	946,442	その他学生支援経費等
計	5,346,442	

平成27年度 決算書

1. 収入の部

平成28年3月30日現在

科 目	当初予算額	決算額	差 額	備 考
繰越金	1,327,262	1,327,262	0	
会 費	4,500,000	3,435,000	-1,065,000	学部110名 大学院10名
雑収入	1,000	693	-307	
計	5,828,262	4,762,955	-1,065,307	

2. 支出の部

科 目	当初予算額	決算額	差 額	備 考 (主な支出・補助の項目等)
就職斡旋旅費等助成金	2,000,000	1,262,840	737,160	就職ガイダンス・就職セミナー 就職関係雑誌 新入生の物部開講授業支援 学生学部長表彰 大学祭(黒潮祭)活動資金支援 学部行事関係(オープンキャンパス、物部 キャンパス一日公開、ホームカミングデー) 後援会総会・役員会
卒業生送別費	1,100,000	974,705	125,295	卒業生・修了生祝賀会
課外活動助成費	400,000	305,123	94,877	よさこい参加学生補助、学生との懇談、 課外活動(運動用具)
卒業記念品費	500,000	453,560	46,440	卒業生記念写真、記念品
後援会だより	600,000	557,440	42,560	後援会だより印刷費等
事務経費	300,000	204,303	95,697	通信費(後援会だより・入会の案内発送、 役員会等案内)、印刷費(封筒他)
予備費	928,262	39,235	889,027	後援会の名称変更に伴う「農林海洋科 学部・農学部後援会」の印
計	5,828,262	3,797,206	2,031,056	

3. 繰越の部

$$\begin{array}{rcl}
 \text{(収入の部決算額合計)} & \text{(支出の部決算額合計)} & \text{(繰越金)} \\
 4,762,955\text{円} & - 3,797,206\text{円} & = 965,749\text{円}
 \end{array}$$

平成27年度 後援会の活動状況

○総会・役員会の開催

- 入学式・総会 …………… 平成27年 4月 3日(金)
- 役員会(3回) …………… 平成27年 6月22日(水)
- …………… 平成28年 2月 8日(月)
- …………… 平成28年 3月16日(水)

○卒業生・修了生への支援

- 卒業生・修了生の歓送会
- 卒業記念写真、卒業証書ファイル他
- 秋季卒業生祝賀会

○新入生への支援

「大学基礎論」「学問基礎論」等物部開講時の支援

○第37号(平成27年度)後援会だよりの発行

学生寄稿原稿を中心に作成し、全保護者への送付(年1回)

○就職活動への支援

- 就職ガイダンス・就職セミナー補助
- 就職用図書購入(会社四季報、週刊東洋経済等)
- その他就職活動のための経費

○学生活動への支援

- 日章寮よさこい踊り子隊支援
- 大学祭(黒潮祭)実行委員会への支援
- 学生と学部長等との懇談会
- 課外活動用品

○学部関係行事への支援

物部キャンパス一日公開、オープンキャンパス、ホームカミングデー
学生学部長表彰懇談会

平成28年度後援会の活動状況(平成28年12月迄)

○総会・役員会の開催

- 入学式・総会 …………… 平成28年 4月 3日(日)
- 役員会 …………… 平成28年 6月22日(水)
- …………… 平成28年12月 8日(木)
- …………… 平成29年 3月予定

高知大学農林海洋学部の公式ホームページをぜひご覧ください。 <http://www.kochi-u.ac.jp/agrimar/>

高知大学農林海洋科学部・農学部後援会規則

(目的)

第1条 本会は、高知大学農林海洋科学部・農学部（以下「学部」という。）の充実発展を期し、学部並びに高知大学大学院総合人間自然科学研究科農学専攻（以下「専攻」という。）の教育活動を助成することを目的とする。

(名称)

第2条 本会は、高知大学農林海洋科学部・農学部後援会と称す。

(事務所)

第3条 本会の事務所は、後援会長宅に置く。

(会員)

第4条 本会は、学部及び専攻学生（外国人留学生を除く。）の保護者で組織する。

(事業)

第5条 本会は、第1条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (ア) 学部・専攻と保護者の緊密なる連絡
- (イ) 学生の教養ならびに福祉に必要な援助
- (ウ) 学生の就職斡旋に必要な援助
- (エ) その他学部・専攻の教育達成に必要な事業

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。
 会長 1名 副会長 2名 理事 若干名
 監事 2名 会計 1名

(役員を選出)

第7条 役員を選出は、次のとおりとする。
 (1) 会長及び副会長は、理事の互選による。
 (2) 理事・監事及び会計は、会員の中から選出する。

(役員の任期)

第8条 役員の任期は、1か年とする。ただし留任を妨げない。
 2 補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(役員の仕事)

第9条 会長は、会務を総理する。
 2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代る。
 3 理事は、会務を処理する。
 4 監事は、会務を監査する。
 5 会計は、会計事務を処理する。

(会務)

第10条 本会の会議は、総会と役員会とする。
 2 総会は、毎年1回学年始めに開く。ただし必要あるときは臨時総会を開くことができる。
 3 役員会は、必要に応じ会長が召集する。

(総会)

第11条 総会において行う事項は、次のとおりとする。
 (1) 予算決算の承諾
 (2) 会務の報告
 (3) 役員を選出
 (4) 規則の改正
 (5) その他必要な事項

(役員会)

第12条 役員会は、第5条にかかげる事項を審議し、これを執行する。
 2 重要事項で緊急を要する場合には、役員会の議決をもって総会に代えることができる。この場合、事後において総会の承認を受けなければならない。

(議決)

第13条 会議の議決は、出席会員の過半数の賛成をえなければならない。

(事務の処理)

第14条 本会の事務を処理するため、事務補佐1名を置き、会長が委嘱する。

(経費)

第15条 本会の経費は、会費をもって充てる。

(会費)

第16条 本会の会費は30,000円（ただし、専攻の場合は、15,000円）とし、子弟の入学時（転入学、転入学部を含む）に一括納付するものとする。ただし、転入学・転入学部については、次のとおりとする。
 2年生22,000円 3年生15,000円 4年生7,500円

(会計年度)

第17条 本会の会計年度は、4月1日に始まり、3月31日に終わる。

附則

本規則は、平成28年2月8日から施行し、平成28年度入学生から適用する。

附則

本規則は、昭和29年4月10日から施行する。

昭和30年4月11日一部改正

昭和31年4月10日一部改正

昭和33年4月11日一部改正

昭和39年4月10日一部改正

昭和43年4月18日一部改正

昭和47年4月10日一部改正

昭和49年4月10日一部改正

昭和52年4月11日一部改正

昭和55年4月10日一部改正

昭和57年4月10日一部改正

昭和59年4月10日一部改正

平成 8年4月10日一部改正

平成20年4月 3日一部改正

平成28年2月 8日一部改正

表紙の写真について

「昭和天皇お手蒔きのクスノキ」

昭和25年3月24日 天皇陛下が四国御巡幸に際して当学部に行幸になり、状況御聴取後玄関前でクスノキの種子をおまきになった。



高知大学農林海洋科学部

Faculty of Agriculture and Marine Science Kochi University

物部キャンパス

Monobe Campus

- 1 農林海洋科学部1号館
- 2 農林海洋科学部2号館
- 3 農林海洋科学部3号館
- 4 農学部4号館
- 5 実験研究棟
- 6 厚生会館(非常勤講師宿泊施設)
- 7 学術情報図書館物部分館及び講義室棟
- 8 福利厚生会館(大学生協)
- 9 附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター
- 10 体育館
- 11 日章寮
- 12 留学生寄宿舍
- 13 国際交流会館
- 14 遺伝子実験施設
- 15 共同利用機器分析室棟
- 16 海洋コア総合研究センター
- 17 大学院総合人間自然科学研究科
黒潮圏総合科学専攻棟
- 18 運動場

